



User Guide

For your safety and comfort

LBX

笑顔になれるような移動の体験を、このお車とともに。
私たち一人一人のこの想いは、いつの時代も変わることはありません。

「人々を安全・安心に運び、心までも動かす」

お客様の安全・安心が私たちの最優先事項です。
ドライバーであるお客様のご理解と行動に、本書がお役に立つことができれば幸いです。

User Guide について

この User Guide には、基本的な操作、万一の場合に必要な情報、安全に関する情報などを抜粋して記載しています。

安全・安心に運転いただくために、乗車前に必ずお読みください。
また、運転時はいつでも確認できるよう、車内に保管しておくことをおすすめします。

詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。
デジタル取扱説明書には最新の情報を掲載しています。
https://manual.lexus.jp/lbx/3060/cv/ja_JP/contents/home.php



User Guide は従来の取扱説明書に比べ大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴う CO2 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するために
レクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。
QR コードは (株) テンソーウェーブの登録商標です。

第 1 章

Starter Guide

スターターガイド

出発前に準備すること

ドアを解錠／施錠する	12
ドアを開ける	13
バックドアを開閉する	14
正しい運転姿勢をとる*	
フロントシートを調整する	15
ヘッドレストを調整する	15
ハンドルの上下／前後位置を調整する	16
インナーミラーの位置を調整する	17
ドアミラーの角度を調整する	17
ドアミラーを格納する／もどす	18
ドアガラスを開ける／閉める	19
エンジンを始動する	20
車内の温度を調整する*	
オーディオのソースを変更する	22
Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムから登録する	22
目的地検索について	23

走行中の操作

シフトポジションを切りかえる	24
パーキングブレーキをかける／解除する（オートマチック車）	29
パーキングブレーキをかける／解除する（マニュアル車）	30
右左折や車線変更するときの操作	31
ヘッドランプをつける	32
ランプをハイビームにする	33
フロントワイパーを使う	34



給油のしかた

給油する	36
------	----

トラブルに対応する

警告灯がついたときは タイヤパンク応急修理キットと 工具の位置	11 37
バッテリーがあがったときに エンジンを再始動する	38
電子キーが正常に働かない状態で エンジンを始動する	39
ドア開スイッチで ドアを開けることができない	41

高速道路を走行するとき

車線内中央の走行維持や車線変更の ハンドル操作を支援する*
車線からはみ出しを警告で防ぐ*
最適な車間距離を保って追従走行する*

目的地に到着したら

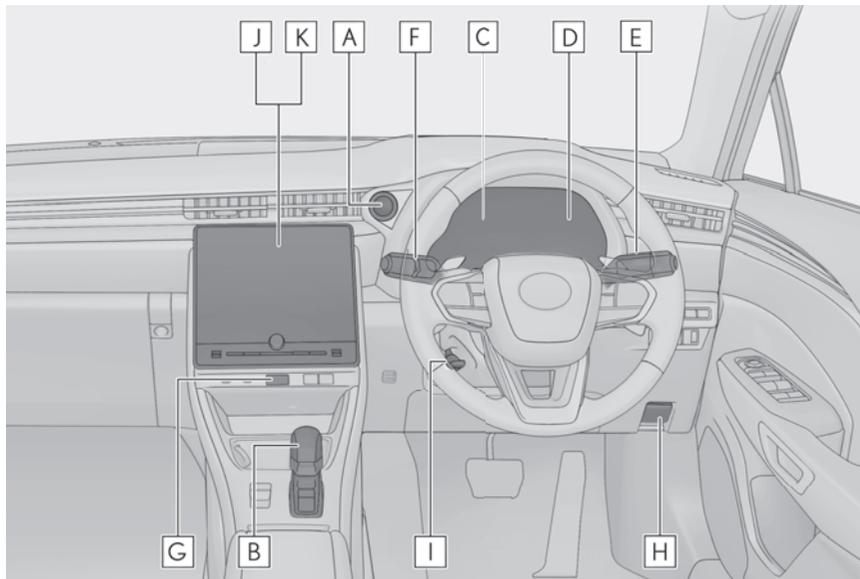
低速時に障害物との接近を検知して 音と画面で知らせる*	
パーキングブレーキをかける/ 解除する (オートマチック車)	29
パーキングブレーキをかける/ 解除する (マニュアル車)	30
エンジンを停止する	21
ドアを解錠/施錠する	12



* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

インストルメントパネル

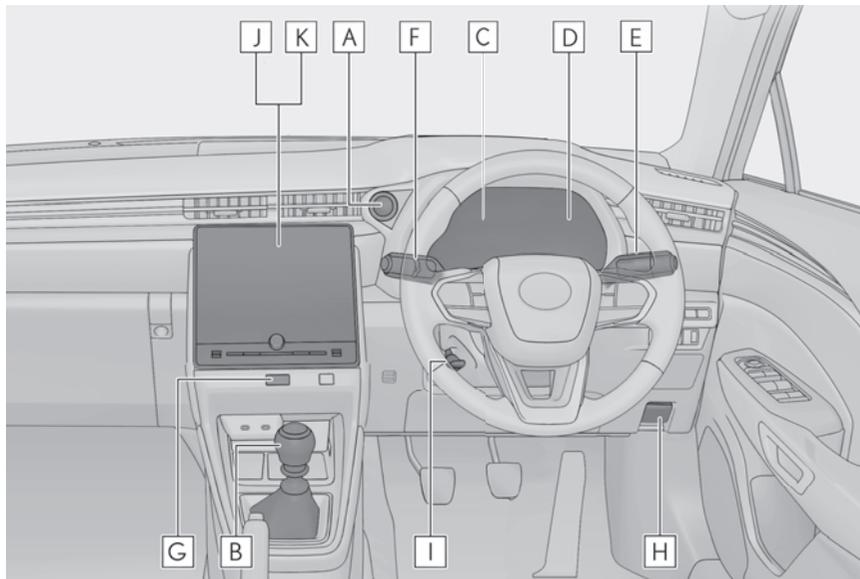
▶ オートマチック車



- A エンジンスイッチ
- B シフトレバー
- C メーター
- D マルチインフォメーションディスプレイ*
- E 方向指示レバー／ランプスイッチ
- F ワイパー&ウォッシャースイッチ (フロント) / ワイパー&ウォッシャースイッチ (リヤ) *
- G 非常点滅灯スイッチ*
- H ボンネット解除レバー*
- I ハンドル位置調整レバー
- J オートエアコン*
- K オーディオ*

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

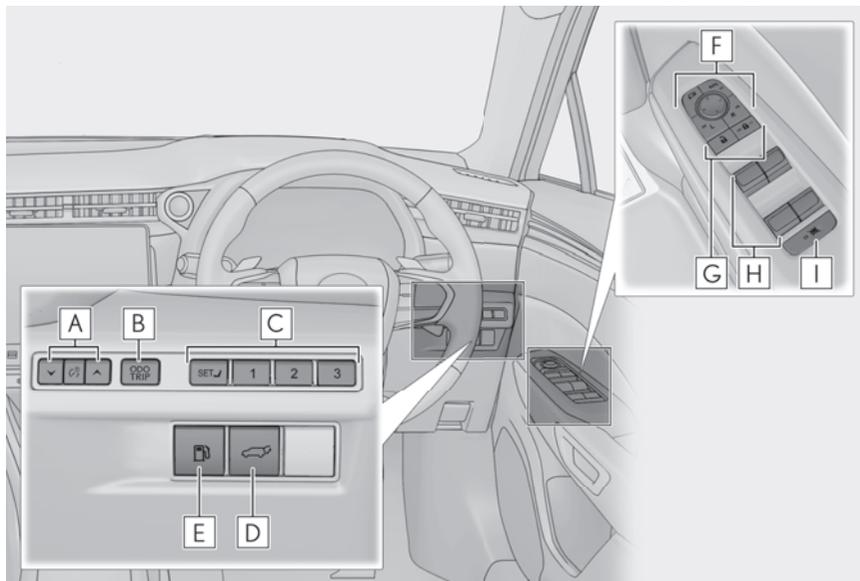
▶ マニュアル車



- [A] エンジンスイッチ
- [B] シフトレバー
- [C] メーター
- [D] マルチインフォメーションディスプレイ*
- [E] 方向指示レバー／ランプスイッチ
- [F] ワイパー&ウォッシャースイッチ (フロント) / ワイパー&ウォッシャースイッチ (リヤ) *
- [G] 非常点滅灯スイッチ*
- [H] ボンネット解除レバー *
- [I] ハンドル位置調整レバー
- [J] オートエアコン*
- [K] オーディオ*

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

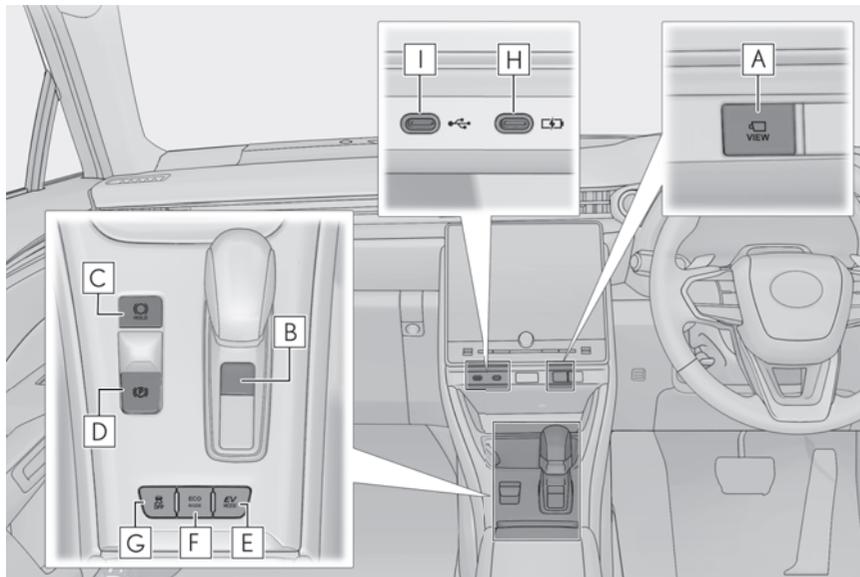
スイッチ類



- A) インストルメントパネル照度調整スイッチ*
- B) ODO TRIP スイッチ*
- C) ポジションメモリースイッチ*
- D) パワーバックドアスイッチ
- E) 給油口オープナースイッチ
- F) ドアミラースイッチ
- G) ドアロックスイッチ*
- H) パワーウインドウスイッチ
- I) ウインドウロックスイッチ*

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

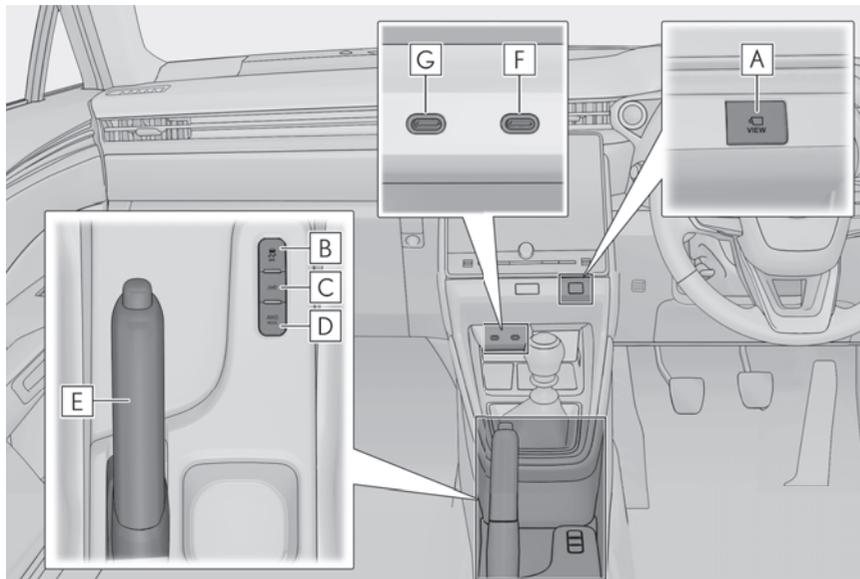
▶ オートマチック車



- [A] カメラスイッチ*
- [B] P ポジションスイッチ
- [C] ブレーキホールドスイッチ*
- [D] パーキングブレーキスイッチ
- [E] AWD モードスイッチ*
- [F] スポーツモードスイッチ*
- [G] VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF スイッチ*
- [H] 充電用 USB Type-C 端子*
- [I] USB Type-C 端子*

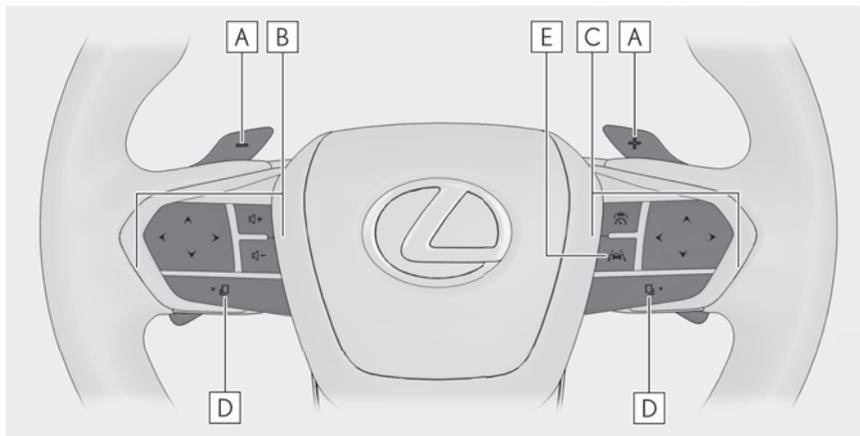
* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

▶ マニュアル車



- ▶ A) カメラスイッチ*
- ▶ B) VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF スイッチ*
- ▶ C) iMT (インテリジェントマニュアルトランスミッション) スイッチ*
- ▶ D) AWD モードスイッチ*
- ▶ E) パーキングブレーキ
- ▶ F) 充電用 USB Type-C 端子*
- ▶ G) USB Type-C 端子*

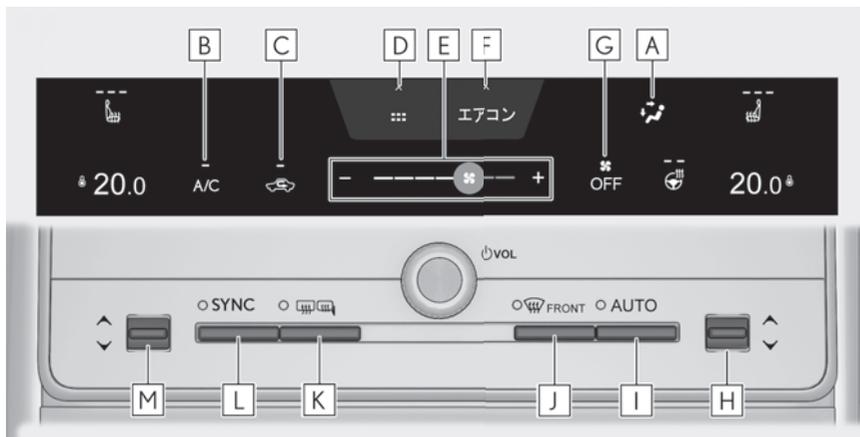
* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



- A パドルシフトスイッチ★*
- B オーディオ操作スイッチ*
- C クルーズコントロールスイッチ*
- D 機能切りかえスイッチ*
- E LTA（レーンレーシングアシスト）スイッチ*

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



- [A] 吹き出し口切りかえスイッチ*
- [B] “A/C” スイッチ*
- [C] 内外気切りかえスイッチ*
- [D] ショートカット画面表示スイッチ*
- [E] 風量調整スイッチ*
- [F] エアコンオプション画面表示スイッチ*
- [G] “OFF” スイッチ*
- [H] 運転席側温度調整スイッチ*
- [I] “AUTO” スイッチ*
- [J] フロントデフロスタースイッチ*
- [K] リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ*
- [L] “SYNC” スイッチ (各席連動モード) *
- [M] 助手席側温度調整スイッチ*

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。

- ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。



(赤色)

- ただちに安全な場所に停車し、WEB 掲載のデジタル取扱説明書に従って対処してください。



(黄色)

(黄色)

(黄色)

(黄色)



(黄色)

(黄色)

(点滅)

- ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。



(黄色)

(赤色)

(黄色)

(点滅)

- シートベルトを着用してください

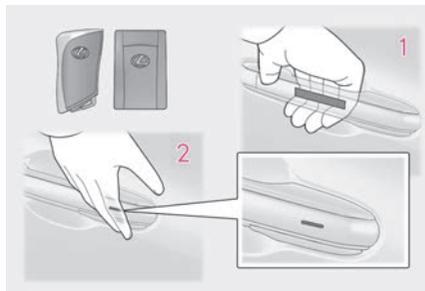


- 燃料を補給してください。



ドアの開閉

ドアを解錠／施錠する



- スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。

- 1 ハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。
施錠操作後3秒間は解錠できません。
- 2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。



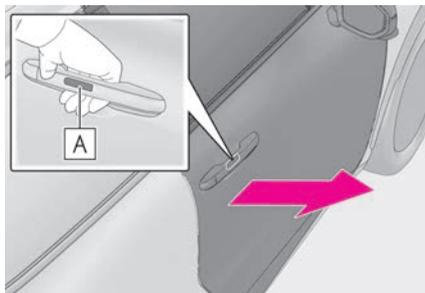
- ワイヤレス機能を使用する

- 1 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが開まります。*
- 2 全ドアを解錠する
押し続けるとドアガラスが開きます。*

※：レクサス販売店ででの設定変更が必要です。

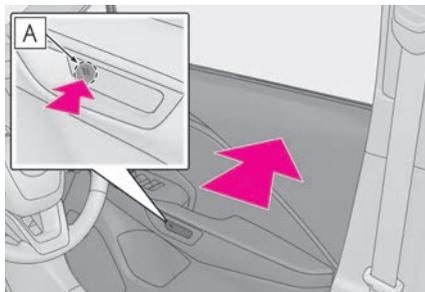
ドアを開ける

▶ 車外



ドアハンドルのドア開スイッチ **A** を押してドアを開く
ドアハンドル裏面のドア開スイッチ **A** を確実に押してください。

▶ 車内

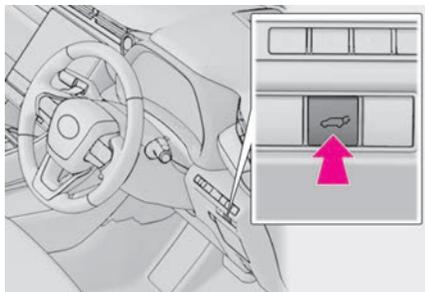


ドア開スイッチ **A** の前側を押してドアを開く
運転席：ドアが施錠されていても開きます。
ドアが解錠されると、ドアロックインジケーターが消灯します。



バックドアを開ける / 閉める

バックドアを開閉する



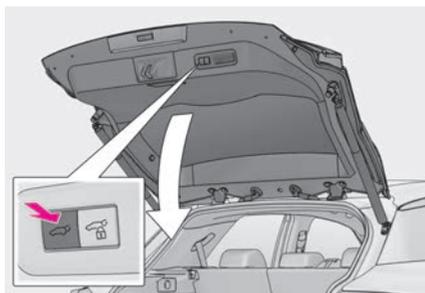
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

スイッチを押す

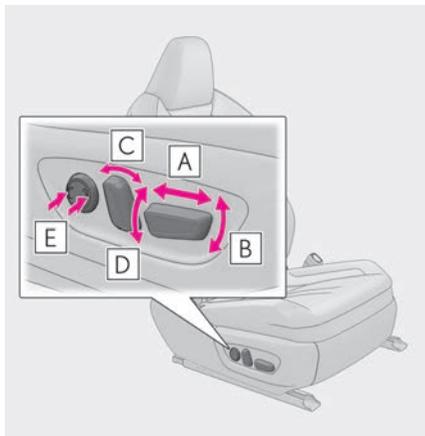
ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。

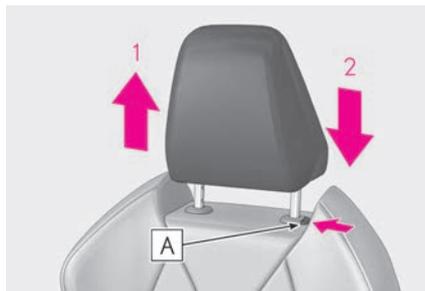
シートを調整する

フロントシートを調整する



- A 前後位置調整
- B クッション前端の上下調整
- C リクライニング調整
- D シート全体の上下調整
- E 腰部調整（ランバーサポート）

ヘッドレストを調整する



ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

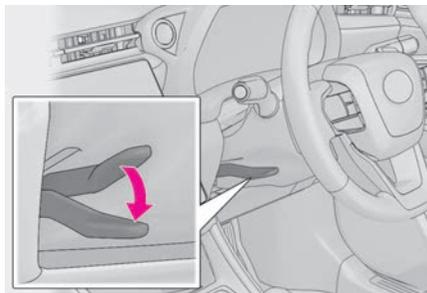
- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

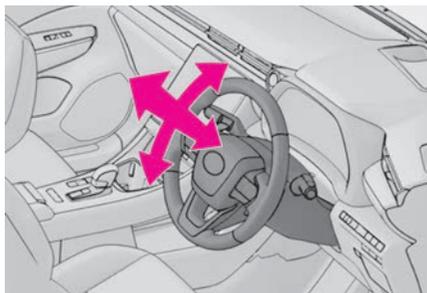


ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する

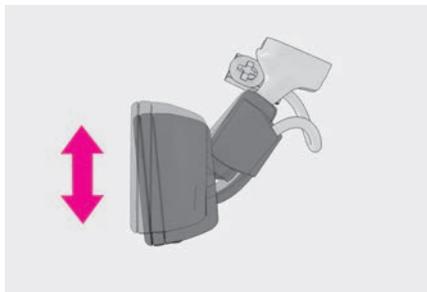


1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



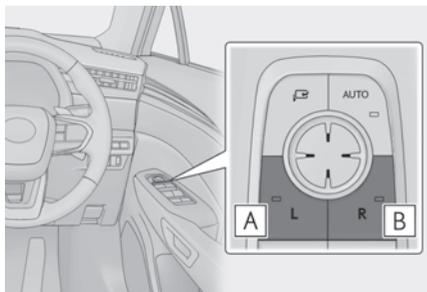
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

インナーミラーの位置を調整する



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

ドアミラーの角度を調整する

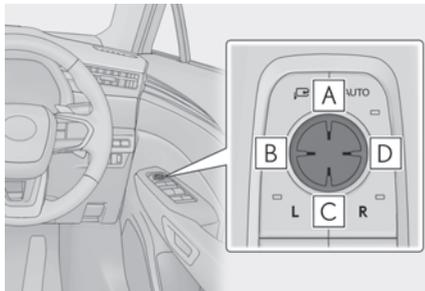


1 調整するミラーを選ぶ

A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

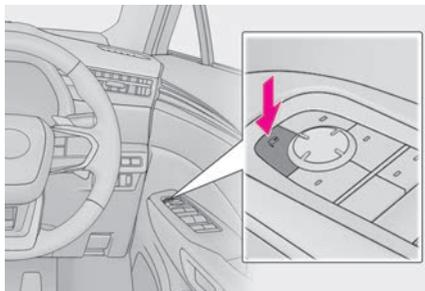


2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

- A 上
- B 左
- C 下
- D 右

ドアミラーを格納する／もどす

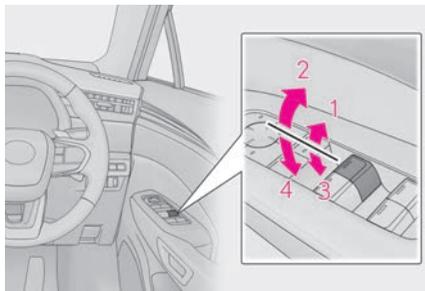
■ マニュアル作動での格納・復帰



ボタンを押す

もう一度押すと元に戻ります。

ドアガラスを開ける／閉める



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

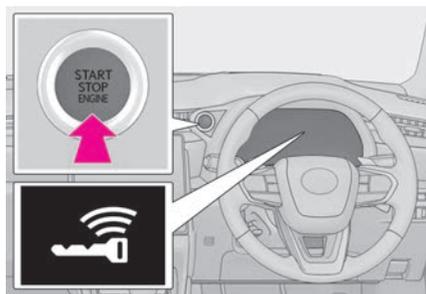
※：途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



エンジンの始動と停止

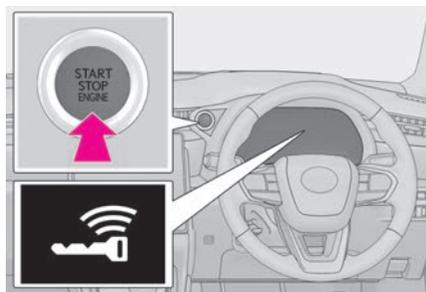
エンジンを始動する

▶ オートマチック車



- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 3 エンジンスイッチを短く確実に押す

▶ マニュアル車



- 1 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがNの位置にあることを確認する
- 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏む
- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

エンジンを停止する

▶ オートマチック車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける
- 3 P ポジションスイッチを押す
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す
- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの “アクセサリー” や “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する

▶ マニュアル車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
- 3 シフトレバーを N にする
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す
- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの “アクセサリー” や “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する



音楽を再生する

オーディオのソースを変更する



ラジオや USB などのソースを変更できます。

- 1 メインメニューの  にタッチします。
- 2 [オーディオ選択] にタッチします。
- 3 希望のソースにタッチします。

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムから登録する

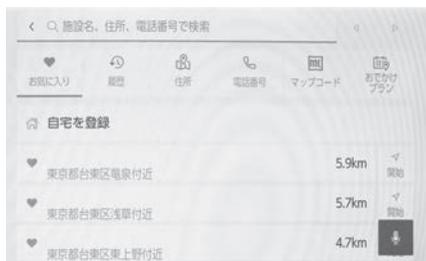
ハンズフリー電話や Bluetooth® オーディオを使用するためには、携帯電話／ポータブル機をマルチメディアシステムに登録する必要があります。登録完了後は、マルチメディアシステムを起動するたびに自動で Bluetooth® 接続されます。

Apple CarPlay/Android Auto を USB で接続したときは、自動的に Bluetooth® 機器として登録されます。

Bluetooth® 機器が 1 台も接続されていない場合、ステアリングスイッチの  スイッチを押し続けることでも登録画面を表示できます。

目的地を検索する

目的地検索について



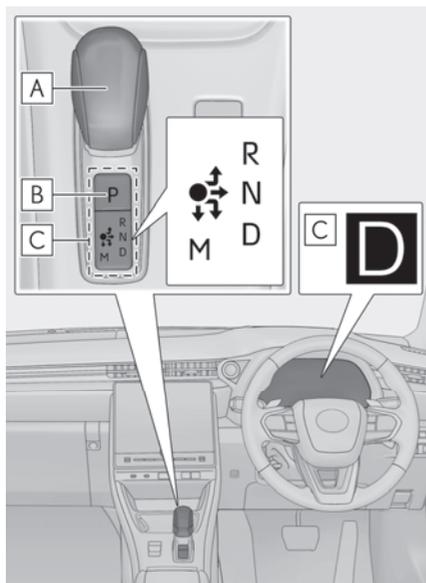
目的地検索画面から目的地を検索し、設定できます。

- 1 地図画面上の **Q** にタッチします。
 - 2 目的地検索画面が表示されます。
目的地の検索方法にタッチします。
 - 3 検索結果リスト画面が表示されます。
リストから目的地に設定したい項目にタッチします。
- すでに目的地が設定されているときは、[新規目的地] (新しく目的地を設定)、または [経由地追加] にタッチします。
 - G-Link センター上のコンテンツを活用した目的地検索を行うこともできます。

シフトポジションを切りかえる

オートマチックトランスミッション

■ シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B P ポジションスイッチ

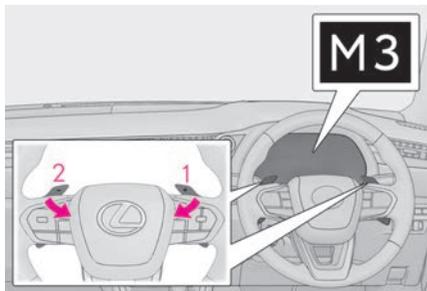
P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

C シフトポジション表示灯

■ Mモードでギヤ段選択するには



シフトポジションを M にすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。パドルシフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作することにより 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

■ シフトポジションの使用目的について

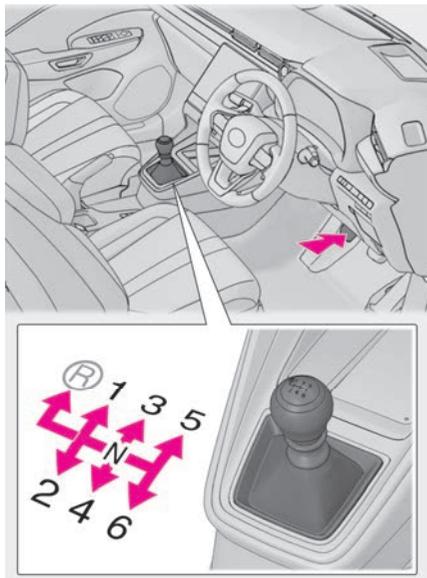
シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
M	Mモード走行

■ Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをMに切りかえることはできません。

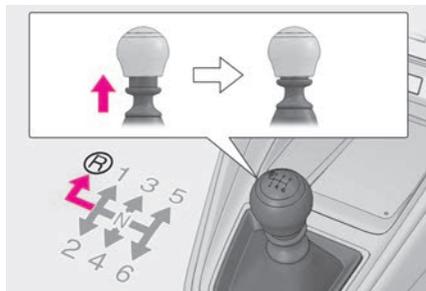
マニュアルトランスミッション

■ シフト操作のしかた



- 1 クラッチペダルをしっかり踏む
- 2 シフトレバーを希望のシフト位置に入れる
シフト操作は一段ずつ行ってください。
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離す

■ R へのシフト操作

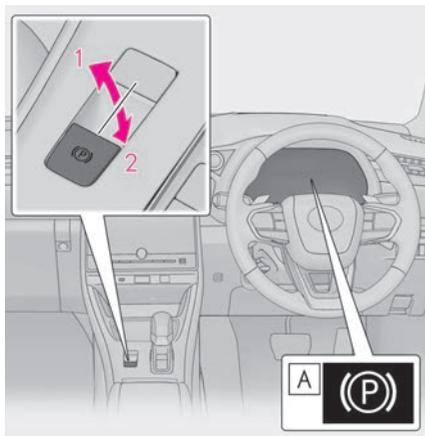


プルカラーを引き上げながら、Rに入れます。

駐車する

パーキングブレーキをかける／解除する（オートマチック車）

■ 手動（マニュアルモード）



□ A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

● ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

● パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

■ 自動（オートモード）

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

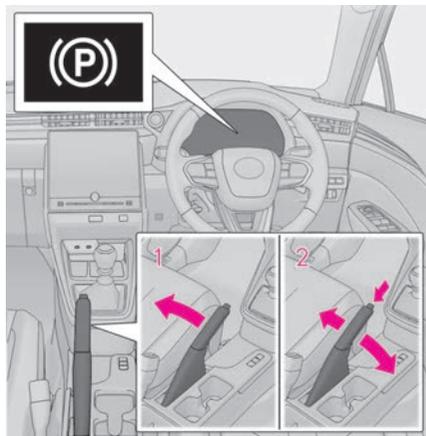
オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

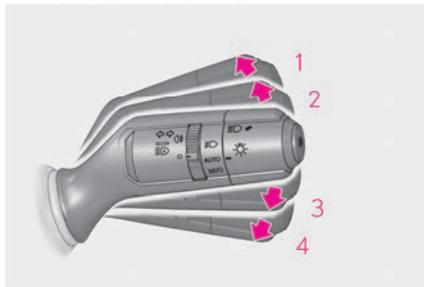
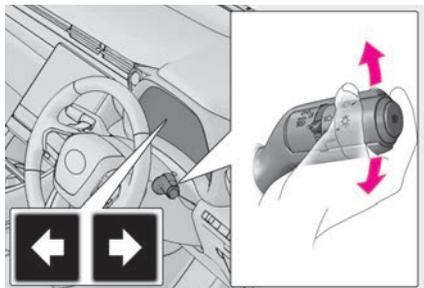


パーキングブレーキをかける／解除する（マニュアル車）



- 1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- 2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

右左折や車線変更するときの操作

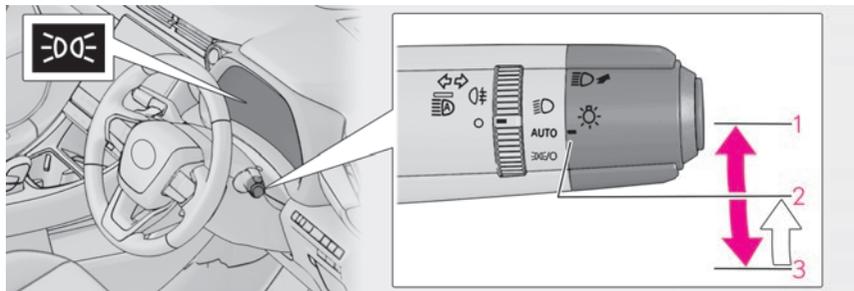


- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）
左側方向指示灯が5回点滅します。
- 3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）
右側方向指示灯が5回点滅します。
- 4 右折



ヘッドランプを使う

ヘッドランプをつける



ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※1	デイトタイムランニングランプが点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  ※1, 2	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※3

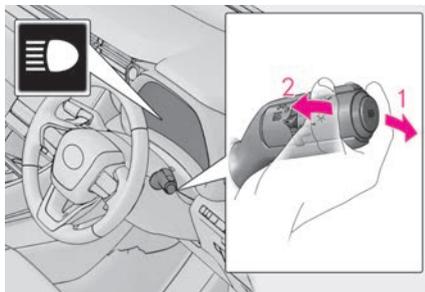
上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1：操作するたびに、2 AUTOによる点灯状態と3 による点灯状態が切りかわります。

※2：スイッチを3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に2 AUTOの位置へもどります。

※3：停車中のみ点灯可能。車両を発進させると2 AUTOによる点灯状態に切りかわります。

ランプをハイビームにする



- 1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

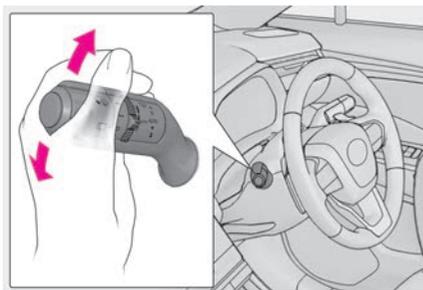


雨の日の視界を確保する

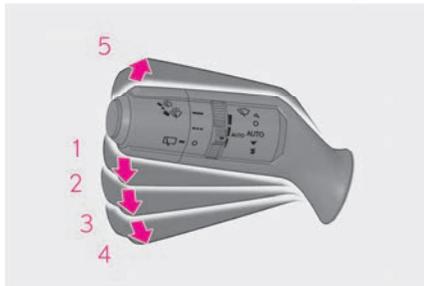
フロントワイパーを使う

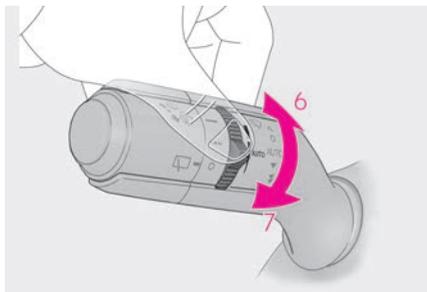
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 AUTO/AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 ▲ 一時作動





AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

- 6 雨滴センサーの感度調整（高）
- 7 雨滴センサーの感度調整（低）



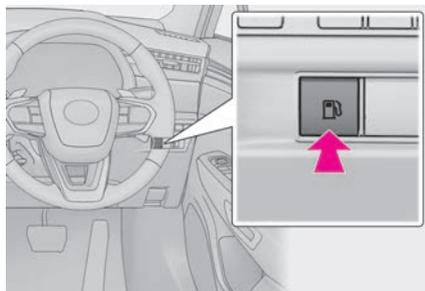
- 8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

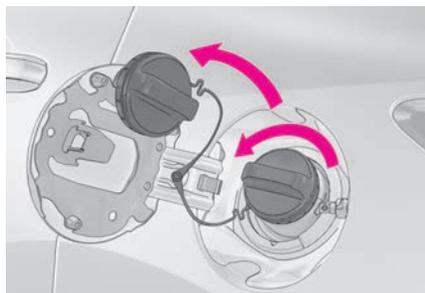
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）



給油する



1 給油口オープナースイッチを押す



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

- 燃料の種類について
 - 無鉛プレミアムガソリン
 - バイオ混合ガソリン（プレミアム）

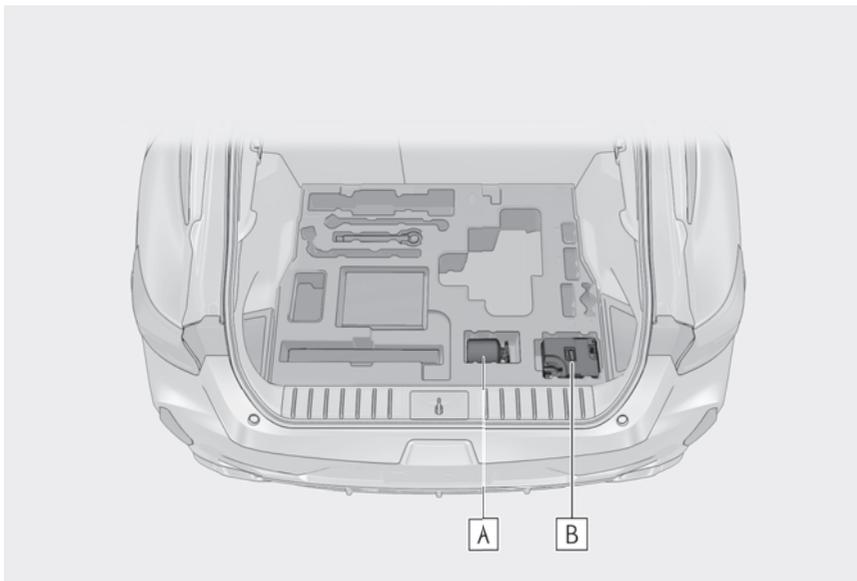
■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

トラブルに対応する

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

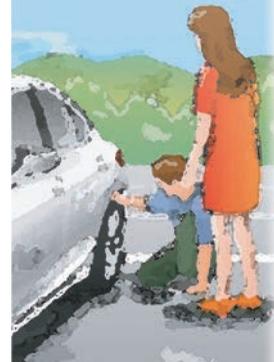


パンク修理に必要な工具類は車に搭載されています。

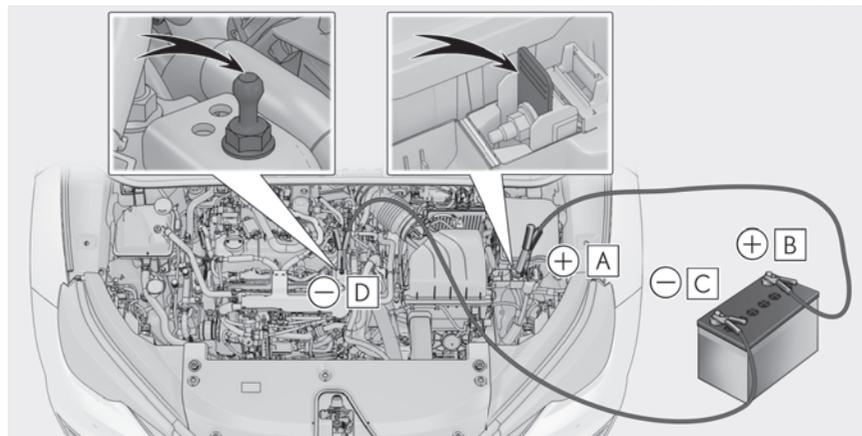
[A] ボトル

[B] コンプレッサー

この車のホイールボルトの締め付けトルクは 140N・m (1428kgf・cm) です。



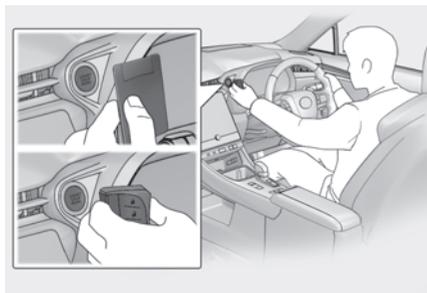
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する



- A) 救援用端子（自車）
- B) バッテリーの+端子（救援車）
- C) バッテリーの-端子（救援車）
- D) 図に示す未塗装の金属部

電子キーが正常に働かない状態でエンジンを始動する

▶ オートマチック車



- 1 シフトポジションがPの状態ではブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

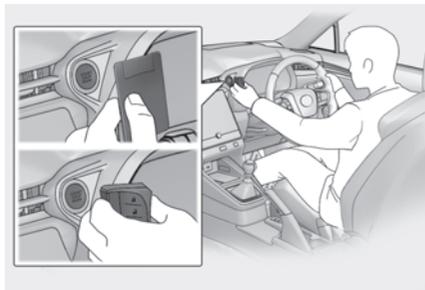
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



▶ マニュアル車



- 1 シフトレバーがNの状態でもクラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

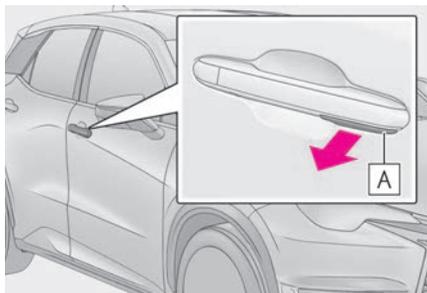
電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

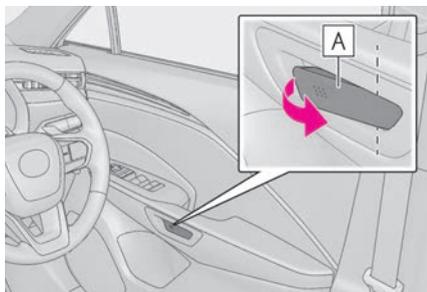
ドア開スイッチでドアを開けることができない

▶ 車外



手動リリースハンドル[A]を手前に引いてドアを開く
通常は手動リリースハンドルでドアを開けることはできません。
ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。*

▶ 車内



手動リリースハンドル[A]を手前に2回引いてドアを開く
1回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くと
ドアが開きます。

※：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



車の点検整備のお願い	44	天候や路面状況に応じた運転	62
ドア／窓に挟み込まれないために	46	天候や路面状況に応じた駐停車	65
フロアマットの状態確認	48	Lexus Safety System + 等の	
シートベルトを正しく着用するために	49	運転支援装置を使用するときは	66
子どもを車に乗せるときは	51	車両を緊急停止させるときは	67
SRS エアバッグの効果を最大限		車両が故障したときは	68
発揮するために	56	電波が心臓ペースメーカー等に	
荷物を積み込むときは	59	及ぼす影響	70
事故を起こさないために	61		

本章は代表的な車種をもとに説明しています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。

車の点検整備のお願い

車両の点検／整備

エンジンをかける前に、日常点検を実施してください。日常点検で異常を見つけたときは、販売店へご連絡ください。点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

日常点検の点検項目

■ エンジンルーム内

各液量を確認してください。

- ブレーキフルード
- 冷却水
- エンジンオイル
- バッテリー液
- ウォッシャー液

■ 車のまわり

タイヤの状態やランプ類の状態を確認してください。

- ランプ類の点灯／点滅
- タイヤの亀裂、損傷の有無
- タイヤの空気圧
- タイヤの溝の深さ

■ 運転席のまわり

走行に必要な装備の状態を確認してください。

- エンジンのかかり具合
- ウォッシャー液の噴射状態
- ワイパーのふき取り具合
- ブレーキの踏み残りしろと効き具合
- パーキングブレーキの引きしろ（踏みしろ）
- エンジンの低速／加速状態

ハイブリッドシステム取扱い上の注意

ハイブリッドシステムには、高電圧の部位や高温になる部位があります。取り扱いにはご注意ください。

車両の不正改造と影響

不正改造とは、車の保安基準を満たさない改造を行うことです。

保安基準を満たさない部品の取り付けや、保安基準で定められた部品の取り外しなども、不正改造になります。

不正改造車は、公道を走行できません。もし走行してしまうと、ドライバーだけでなく、周りの人たちの安全を脅かすおそれがあります。

車両の不正改造の例とそれに伴う危険性



車高の変更

ステアリング操作等への影響



フロントガラスへの着色フィルム等の貼り付け

運転時の視野の確保における影響



タイヤのはみ出し取り付け

歩行者等に危害を与えるおそれ



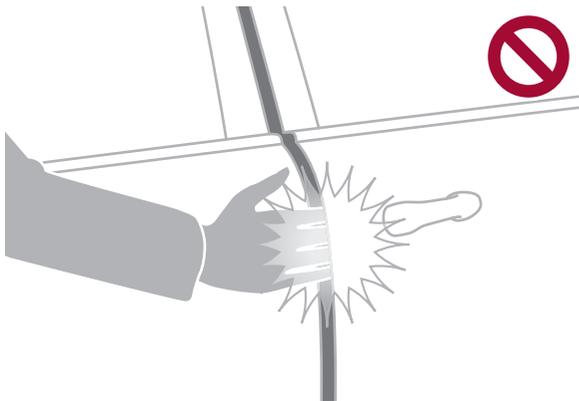
ランプ類の変更

他の交通への誤認や事故を誘発するおそれ

ドア／窓に挟み込まれないために

ドアや窓、トランク、バックドア、ムーンルーフの開閉時に体を挟んだり、壁や天井などにぶついたりしないように注意してください。

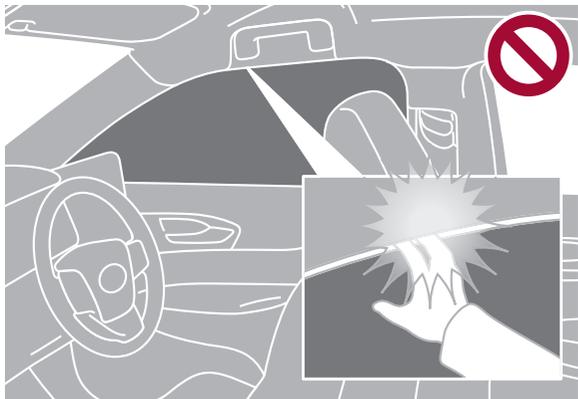
イージークローザー（自動閉じ装置）★作動中は体を挟まないように注意する



イージークローザー（自動閉じ装置）には、自動で動作を止める機能はありません。ドアやトランク、バックドアを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。

★：イージークローザー装着車のみ

パワーウィンドウ作動中は体を挟まないように注意する



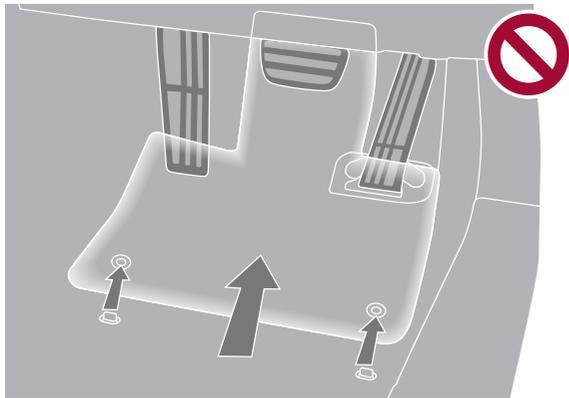
ドアガラスが完全に閉まる直前は、挟み込みを防止する機能が作動しないことがあります。

また、スイッチを引き続けた状態では挟み込みを防止する機能は作動しません。体を挟まないようにご注意ください。

ドアガラスを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。特に、子どもが体を外に出さないように、声かけをしてください。

フロアマットの状態確認

オートマチック車の例



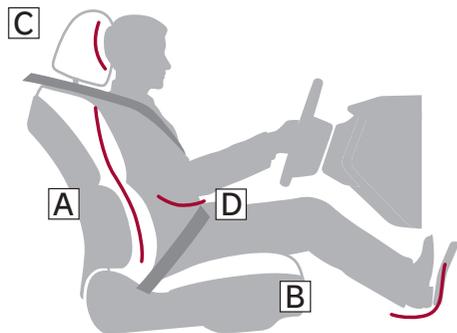
次のことを必ずお守りください。

- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- 各ペダルを奥まで踏み込んでも、フロアマットと干渉しないことを確認してください。確認は、エンジンが停止している状態およびシフトポジションがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で行ってください。

シートベルトを正しく着用するために

正しい運転姿勢をとる

① 運転するときは、正しい運転姿勢をとります。



- ① A まっすぐ座り、運転操作をしたときに体が背もたれから離れない角度に調整
- ① B ペダルが踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるシート位置に調整
- ① C ヘッドレストの中央部分を耳のいちばん上のあたりに調整
- ① D シートベルトを正しく着用

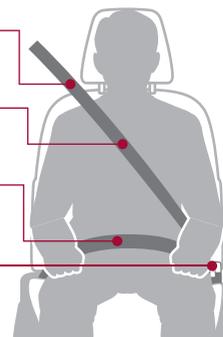
② 各装備の位置を調整したあとは、固定されていることを確認します。

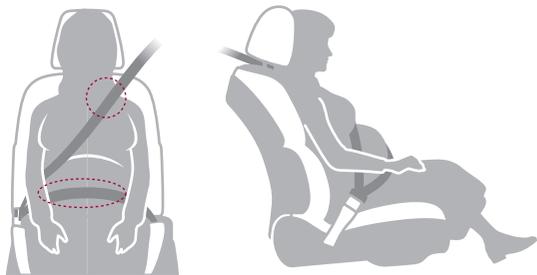
背もたれと背のあいだにクッションを入れないでください。

シートベルトの正しい着用

次のことを確認して、シートベルトを正しく着用します。

- 肩部ベルトは首にかからないようにする
- シートベルトのねじれがないようにする
- 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 上体が起きるように背もたれを調整して、深く腰かける





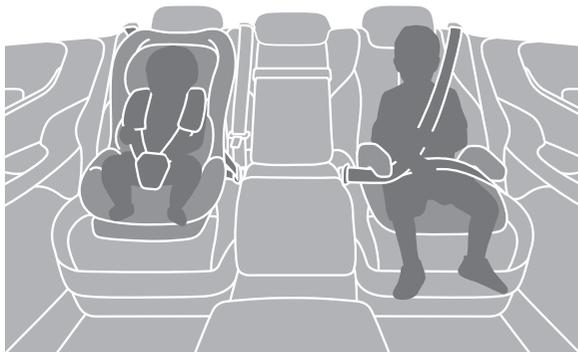
妊娠中のシートベルトの着用に関する注意

医師に注意事項を確認の上、以下のとおりにシートベルトを必ず正しく着用してください。

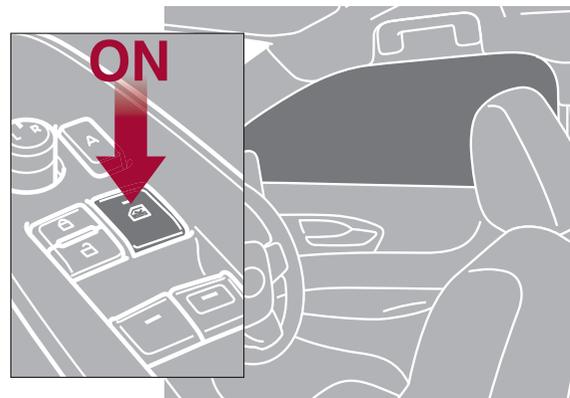
- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけるため、お腹のふくらみの下に着用する
- 肩部ベルトは肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかけて着用する

子どもを車に乗せるときは

子どもを車に乗せるときは、次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。また、最悪の場合には死亡事故につながるおそれがあります。



- 子どもにもシートベルトを着用する
シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。
- 子どもはリヤシートに乗せる



- 子どもには、パワーウィンドウ、ドア、およびシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- 子どもがドアやパワーウィンドウの開閉などでけがをしないように、チャイルドプロテクターやウィンドウロックスイッチを使用してください。



● 車を離れるときは、子どもを連れて出る

子どもだけを車の中に残さないでください。日中の車内は非常に高温になるため、重大な健康障害につながるおそれがあります。

また、子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。



● 座席以外に人を乗せない

トランクやラゲージルームなどに誤って閉じ込められた場合、重大な健康障害につながるおそれがあります。

チャイルドシートの利用



シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。

チャイルドシートはリヤシートに取り付けることを推奨します。安全のため、チャイルドシートは、リヤシートに取り付けてください。

チャイルドシートは子どもの体格にあった適切なものを用意してください。

チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。



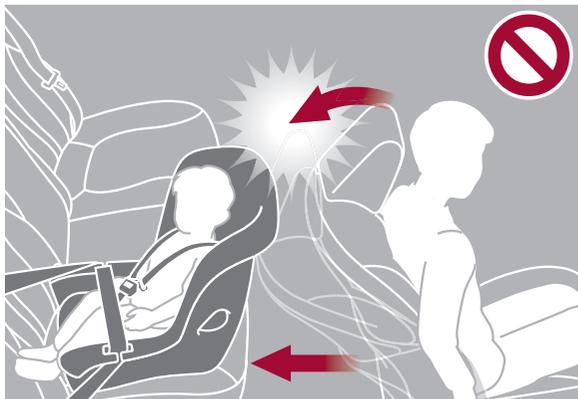
● 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを後ろ向きに取り付けていると、SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。



● 助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げてください。SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。



- 運転席と干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合

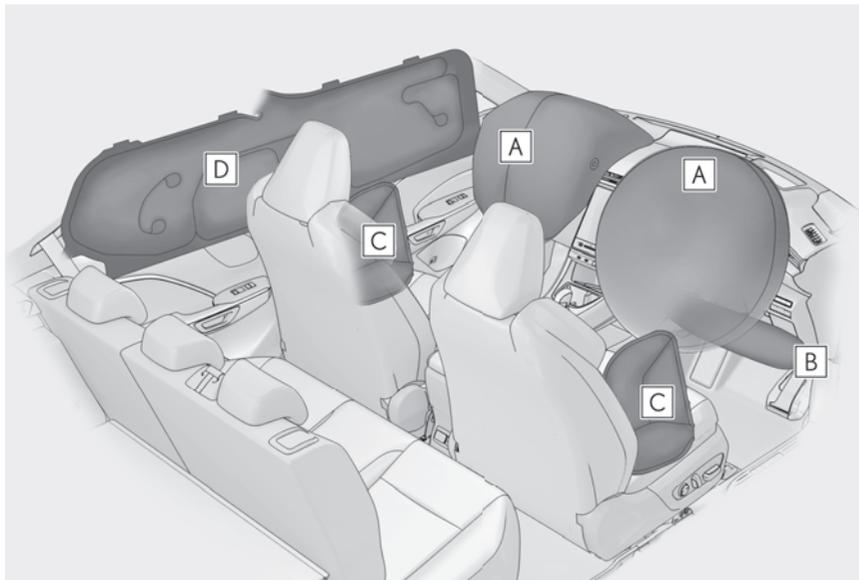
運転席を調整したときに、チャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。

助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

SRS エアバッグの効果を最大限発揮するために

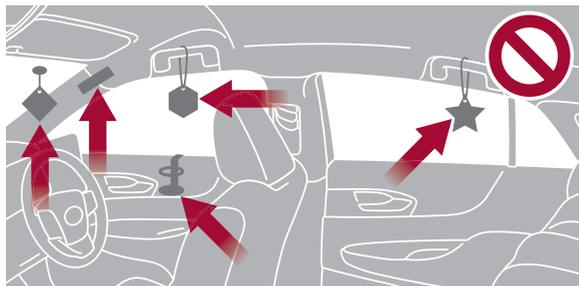
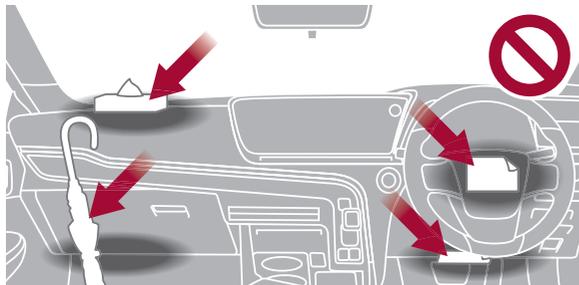
SRS エアバッグは、乗員に重大な危害がおよぶほどの強い衝撃を受けたときにふくらみます。SRS エアバッグとシートベルトの働きによって、乗員への衝撃を緩和します。

SRS エアバッグの配置



- A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和
- B SRS ニーエアバッグ
運転者の衝撃緩和を補助
- C SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
- D SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

SRS エアバッグの効果を得るために



SRS エアバッグが展開する次のような部位に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRS エアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムが作動しない、または誤って作動するおそれがあります。

- ダッシュボード
- ハンドルのパッド部分
- インstrumentパネル下部
- ドア
- フロントガラス
- ドアガラス
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

また、コートフックにはハンガーなどのかたいものをかけないでください。

正しい姿勢で乗車しないと、SRSエアバッグ作動時の強い衝撃によって、重大な傷害を受けることがあります。次の内容にしたがって、正しい姿勢で乗車してください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



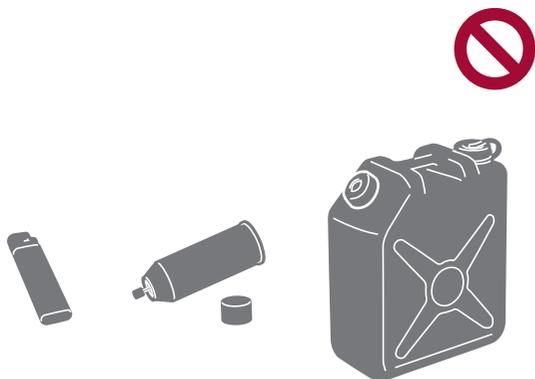
- ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない。

SRSエアバッグ展開時の注意事項

SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、SRSエアバッグにふれないでください。

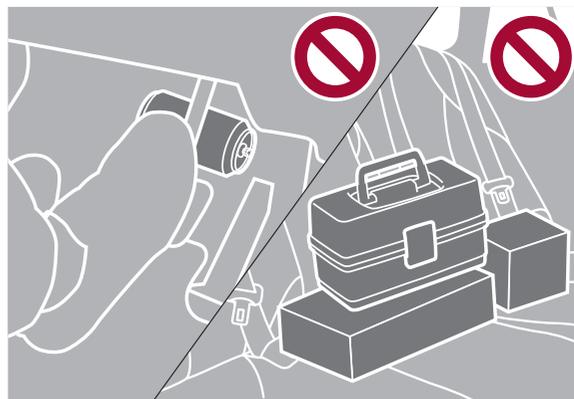
荷物を積み込むときは

車両に積んではいけないもの



燃料が入った容器やスプレー缶などの揮発性や発火性のあるものを積むと、車両火災につながるおそれがあり危険です。

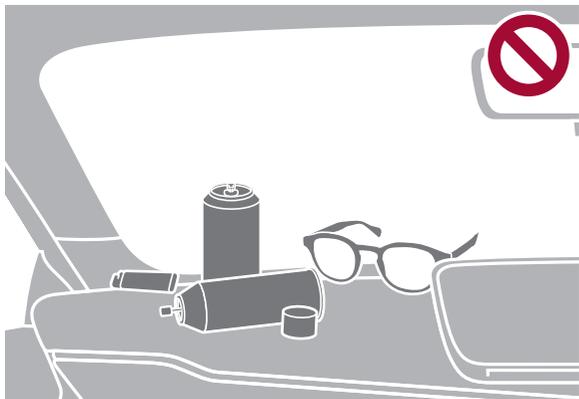
車両に荷物を積むときの警告事項



次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
・運転席の足元 ・バツケージトレイ ・インストルメントパネル ・ダッシュボード ・センターディスプレイの前
- 助手席やリヤシートには荷物を積み重ねないでください。
- 室内に積んだ荷物はすべて、しっかりと安定させてください。
カップホルダーはふたを閉じているときでも、カップや缶以外のものを置いたり、収納したりしないでください。
カップホルダーには、カップや缶以外のものを置かないでください。

車両に放置してはいけないもの

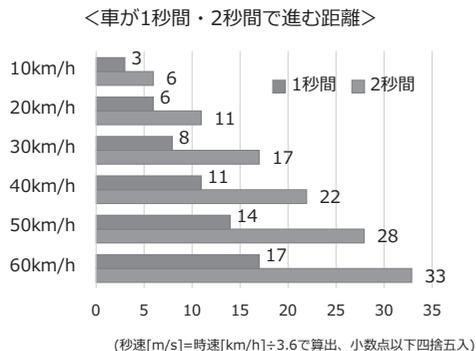


次のものを収納装備に放置しないでください。
思わぬ事故や傷害につながるおそれがあります。

- メガネ
- ライター
- スプレー缶
- 炭酸飲料の缶など

事故を起こさないために

わき見運転の危険性

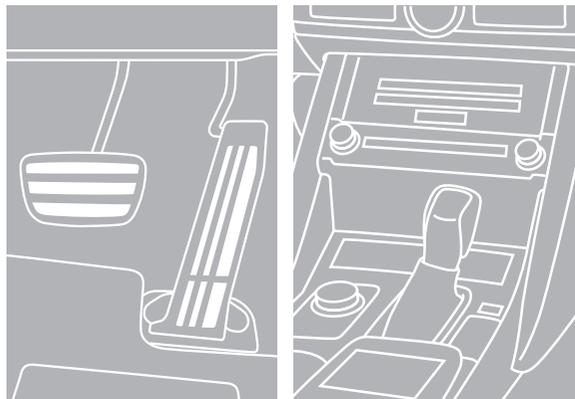


次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はシートやハンドル、各種ミラーといった、運転にかかわる装備の調整をしないでください。
- スマートフォン・ナビ画面の操作など、わき見運転は、絶対にしないでください。ほんの数秒であっても、車は数十メートル進むため、事故につながる可能性があります。

ペダルの位置とシフトポジションを正しく確認してください

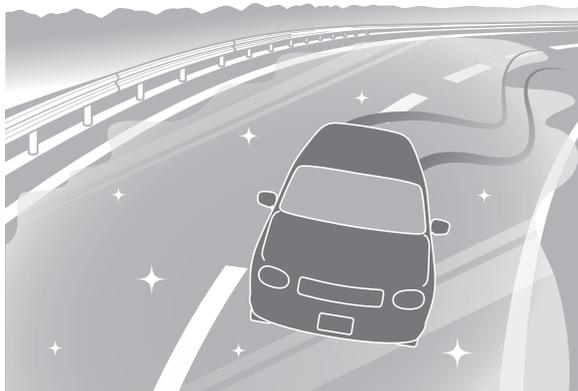


次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- 発進や後退をするときは、適切なシフトポジションが選択されていることを確認してください。
- 後退するときは、ペダルの踏み間違いや踏みすぎに注意してください。

天候や路面状況に応じた運転

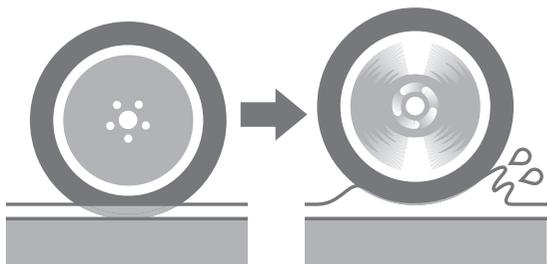
すべりやすい路面を運転するとき



雨や雪、凍結などで路面が滑りやすくなっているときは、安全に配慮した運転を心がけ、特に次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車間距離を長くとる
 - スピードを控えめにする
 - 急発進や急加速、急ブレーキをしない
 - 急ハンドルをしない
 - 急激なシフト操作をしない
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

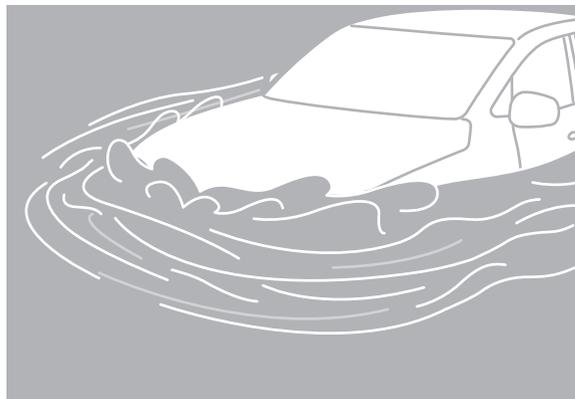
雨でぬれた路面を走行するとき



雨でぬれた路面を高速で走行すると、ハイドロプレーニング現象が発生することがあります。ハイドロプレーニング現象が発生すると、ブレーキやハンドルが効かなくなるため、アンチロックブレーキシステム（ABS）※が機能しないおそれがあります。

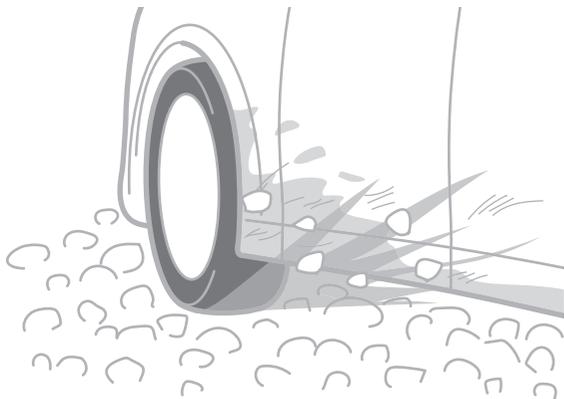
※：急ブレーキ時のタイヤの回転のロックを防ぐことで、車両のスリップを抑制しハンドル操作を可能にする機能

道路が冠水しているとき



車に重大な損傷を与えるおそれがあるため、エンジンをかけたり、走行したりしないでください。車が水に浸かってしまったときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

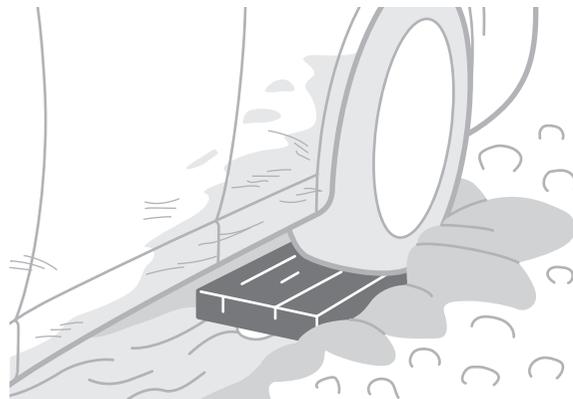
荒れた路面を走行するとき



段差や凸凹のある荒れた路面を走行すると、タイヤの空気が抜けることがあります。タイヤの空気が抜けると、タイヤのクッション性能が低下し、車両に損傷を与えるおそれがあります。

また、荒れた路面を走行することによって受ける衝撃により、タイヤやホイール、車体を損傷するおそれがあります。

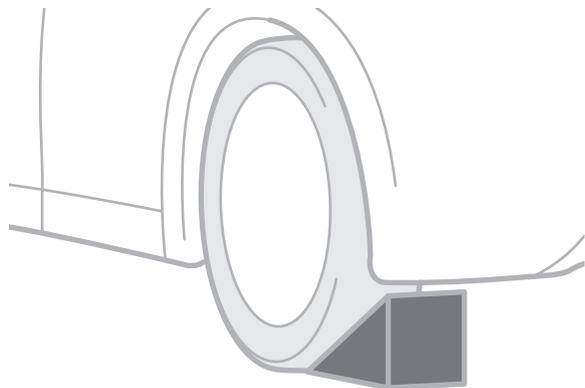
ぬかるみにはまったとき



駆動輪周辺の土や雪などを取り除き、駆動輪の下に木や石などをあてがい、脱出を試みてください。脱出できなかった場合は、けん引による救援が必要です。

天候や路面状況に応じた駐停車

坂道で駐車するとき



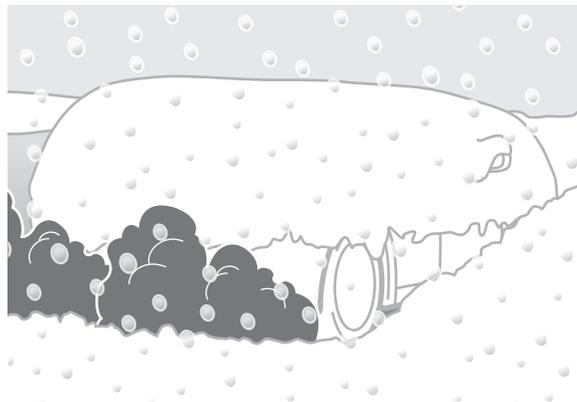
必要に応じて、輪止め※を使用してください。

※：輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

停車するときの警告事項

長時間、エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入し、人体に害をおよぼすおそれがあります。やむを得ず、長時間エンジンをかけたままにする場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。また、可燃物の近くに停車しないでください。

降雪時や雪が積もった場所で駐車するとき



エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

Lexus Safety System + 等の運転支援装置を使用するときは

車には、事故被害や運転負荷の軽減、安全性向上のためのさまざまなシステムが搭載されています。

しかし、システムの認識性能や制御機能には限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

また、システムによっては、作動終了によって機能が解除されるものがあります。必要に応じて運転操作を行ってください。

詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。

車両を緊急停止させるときは

緊急の場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止すると、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。

万一、車が止まらなくなったときは、車を緊急停止します。次の手順に従って、車を停止させてください。



- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。
ブレーキペダルは、くり返し踏まないでください。
- 2 シフトポジションを N にします。
シフトポジションが N になった場合と、ならなかった場合とでは手順が異なります。状況に応じて必要な操作を行ってください。

● シフトポジションが N になった場合

- 3 減速してから、車を安全な道路脇に停めます。
- 4 エンジンを停止します。

● シフトポジションが N にならない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止します。
- 5 車を安全な道路脇に停めます。

車両が故障したときは

停止表示板または停止表示灯の表示の義務と購入



停止表示板

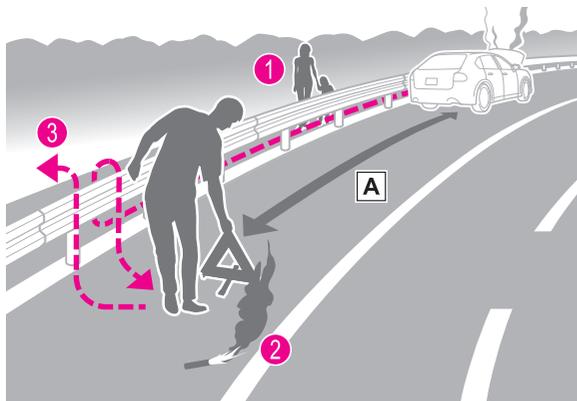


停止表示灯

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯を表示してください。これらの表示は、法律によって義務付けられています。

停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

車両が故障したときの対応



車両が故障したときは、すみやかに次の作業を行ってください。

- 非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せて停めます。
- 高速道路や自動車専用道路では、次の作業を行います。
 - ① 同乗者を避難させます。
 - ② 車両の 50m 以上後方[A]に停止表示板または停止表示灯、および発炎筒を置きます。
 - ・ 見通しが悪い場合は、停止表示板または停止表示灯、および発炎筒をさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料がもれている場合やトンネル内では使用しないでください。
 - ③ ガードレールの外側など、安全が確保できる場所に避難します。

電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響



スマートエントリー&スタートシステムは、電子キーと車のアンテナとの間で微弱な電波の送受信を行っています。

スマートエントリー&スタートシステムの電波は、医療用の電気機器に影響を及ぼすおそれがあります。次のように対応してください。

- 植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ／植込み型除細動器を装着されている方：アンテナから約 22cm 以内に近付かないでください。
- 上記以外の医療用電気機器をお使いの方：スマートエントリー&スタートシステムの電波による影響について、医療用電気機器の製造業者に事前に確認してください。
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくは、レクサス販売店にお問い合わせください。

第3章

Important Information

インポートインフォメーション

▶ 取扱説明書

安全・安心のために	72
走行に関する情報表示	84
運転する前に	85
運転	92
室内装備・機能	117
お手入れのしかた	121
万ーの場合には	128
車両情報	135

▶ マルチメディア取扱説明書

基本操作	136
各種設定および登録	136
スマートフォンや通信機器の接続	137
ナビゲーション	137
オーディオシステム	138
ハンズフリー電話	140
G-Link	140
駐車支援システム	143
ETC の利用	146
付録	148

安全・安心のために

運転する前に

フロアマットを固定するには

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。

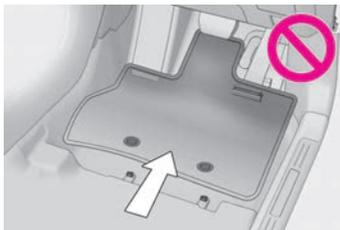
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトポジションがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

正しい運転姿勢をとるには

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れてください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしてください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

▲ 警告

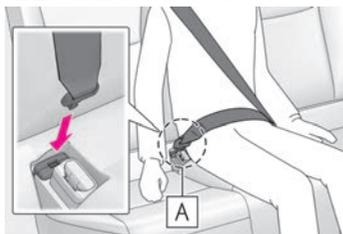
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、図のA部が結合されていることを確認する

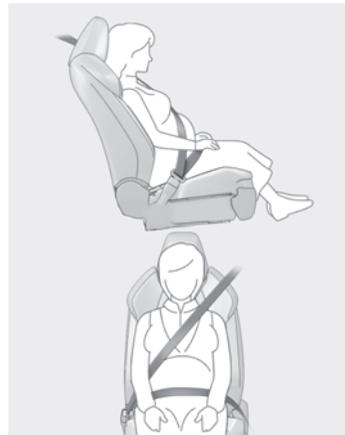
結合されていない場合は結合してから使用する



■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→*) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→*

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



- ねじれがないようにする

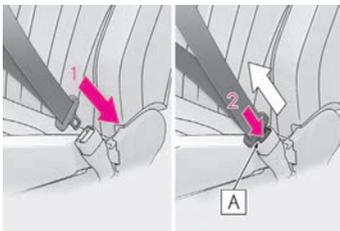
知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

着け方・はずし方

- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す



知識

■ シートベルトロックの解除方法

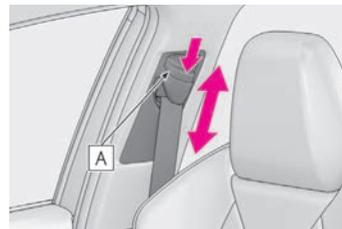
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動

かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上下に動かして調節する

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー

▲ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

| SRS エアバッグシステム

▲ 警告

■ SRS エアバッグについて

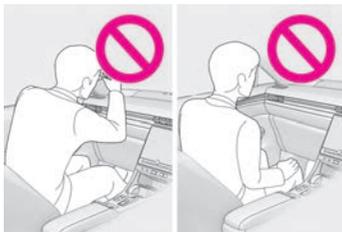
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれ

を調整して、シートをできるだけSRSエアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→*)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く→*)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRSカーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバツ

グが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造

- ・ フロントフェンダー
- ・ フロントバンパー
- ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
 - サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

▲ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素 (CO) が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方をまとめた、*を参照してください。

チャイルドシート

！ 知っておいていただきたいこと

▲ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→*）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

！ チャイルドシートを使用するときは

▲ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

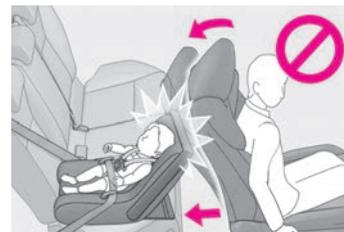


- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントビラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

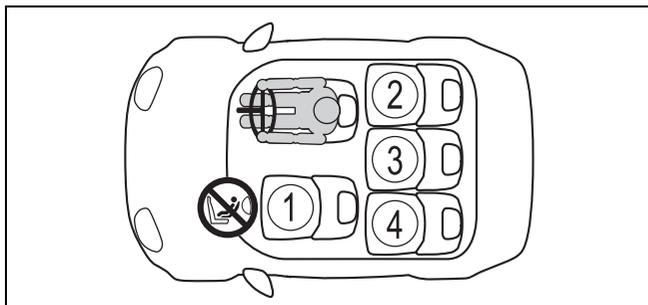
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※3	U L  
③ ※3	U ※5
④ ※3	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→*）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

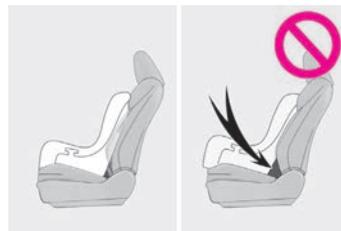


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1：シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2：背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4：チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

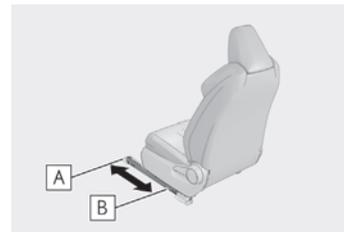
- ※5：アームレスト装着車は、アームレストをいちばん前までスライドさせた状態で取り付けてください。



- ※1：運転席をいちばん高い位置に調節してください。(→*)

- ※2：助手席の前後位置を1段目から11段目(後ろから15段目)の範囲で調整してください。

- A 1段目
B 11段目



■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル(汎用)ベルト式が搭載可能な着座位置(有/無)	有前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置(有/無)	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具(L1/L2)	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具(R1/R2X/R2/R3)	×	R1, R2X, R2, R3※1	×	R1, R2X, R2, R3※2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具(F2X/F2/F3)	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具(B2/B3)	B2, B3 シートベルト固定のみ	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

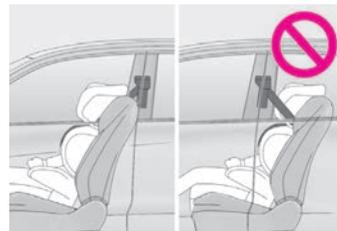
推奨 チャイルド シート	適応範囲	搭載 する 向き	着座位置			
			①	②	③	④
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢15か月以上 かつ、身長： 76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長： 100～150cm (体重： 15～36kg)	前向き のみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

- シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

Ⅰ チャイルドシートをシートベルトで固定する

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子様をシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、

確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

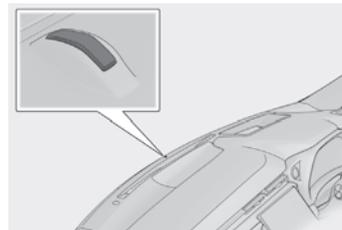
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

エンジンイモビライザーシステム

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



□ 知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

▲ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

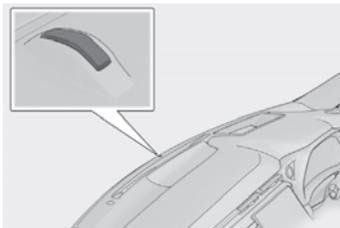
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除/停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

△ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

| 侵入センサー

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→*)

■ 侵入センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 ショートカット画面表示スイッチ  を選択する

2  を押す

操作したシンボルが白色に変わり、侵入センサーが停止します。もう一度タッチすると、侵入センサーは再びセットされます。侵入センサーを OFF / ON にするたびに、センターディスプレイのシンボルが変化します。

□ 知識

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

△ 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のア

クセサリを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

- 電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

走行に関する情報表示

警告灯／表示灯

警告灯一覧

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

メーターの表示について

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときや、“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、

エンジンを確認してください。(→*)

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示

警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。
- 低温時の画面表示について
→*

ヘッドアップディスプレイ

ディスプレイの表示

警告

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかる、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

| ヘッドアップディスプレイの使い方

▲ 警告

- **ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは** エンジンがかかっている状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

- **ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは** バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転する前に

キー

| キーの種類

- 知識

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

▲ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付いたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→*

■ 電子キーを紛失したとき

→*

■ カードキーの取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたりときや飲料水などをこぼしたときは、ただち

に電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなる場合があります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ デジタルキーの取り扱い

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ドア

| 車外から解錠／施錠するには

▲ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さない
特に、運転席はドアロックスイッチが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するとき

ドアを閉めるときは、少し勢いをつけて閉めてください。手で押すようにドアを閉めると、完全に閉まらないおそれがあります。傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バックドア

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

00

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につな

がるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

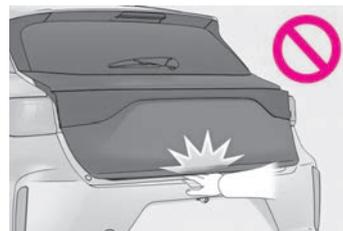
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが

静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



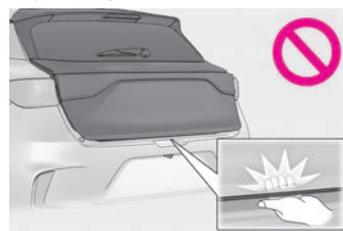
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニット（→*）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

バックドアを開閉するには

▲ 警告

■ バックドアアイズークローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイズークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックドアアイズークローザーは、パワーバックドアの作動が



OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
 - 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - 自動開閉中に作動可能条件（→*）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
 - 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
 - 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
 - バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。

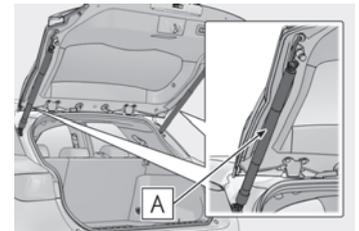
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

▲ 注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット[A]が取り付けられています。スピンドルユニット[A]の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
 - ロッド部を軍手などでふれない
 - バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない
- ### ■ バックドアアイズークローザーの故障を防ぐために
- バックドアアイズークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイズークローザーの故障の原因となります。
 - パワーバックドアの開け閉めを短時間くり返すとバックドアアイズークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。
- ### ■ パワーバックドアの故障を防ぐために
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→*）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

スマートエントリー&スタートシステム

▲ 警告

■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→*）から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

フロントシート

調整するには

▲ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
 - シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- #### ■ リクライニング調整について
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 助手席：シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

背もたれを倒す・もどす

- #### ■ 背もたれをもとにもどす
- 背もたれを起こして固定する
- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。



▲ 警告

■ 背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡

につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをP（オートマチック車）、またはN（マニュアル車）にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

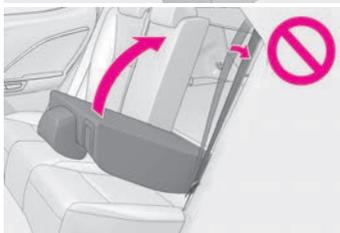
■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- 背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。
- シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

▲ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラー

上下調整するには

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

▲ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

▲ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

▲ 警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

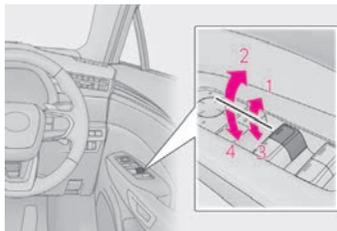
パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。

- 1 閉める
- 2 自動全開※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※：途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがONのとき

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをONの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約4秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。
 - 1 エンジンスイッチをONにする
 - 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
 - 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約6秒以上引き続ける
 - 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約1秒以上押し続ける
 - 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける
 - 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→*)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

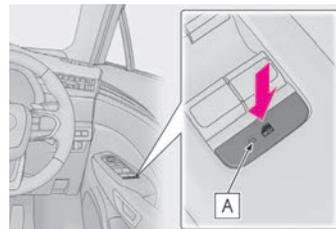
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

↓ 誤操作を防止するには (ウィンドウロックスイッチ)

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター[A]が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



パワーイージーアクセスシステム (オートマチック車) / ポジションメモリー / メモリーコール機能

↓ 運転席への乗り降りをしやすくするには (パワーイージーアクセスシステム) (オートマチック車)

▲ 警告

- パワーイージーアクセスシステムでシートが作動しているときは、体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

↓ ドライビングポジションをポジションメモリーボタンに登録するには

▲ 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

運転

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

運転にあたって

安全に走行するには

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、*を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→*)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないよ

うにしてください。

- オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的としたAWD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するとき
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。
- シフトポジションを変更するとき
- オートマチック車では、前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったりハンドル操作が重たくなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにししないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効か

くなります。

- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯（オートマチック車）で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。シフトポジションがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

- ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にし、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかわりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキン

グブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

△ 注意

■ 運転しているとき（オートマチック車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 運転しているとき（マニュアル車）

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。その場合はレクサス販売店で点検を受けてください。
- ・ シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する

- ・ 1速以外での発進は避ける
- ・ クラッチペダルで車速を調整しない
- ・ シフトレバーをN以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する
- 車両が完全に停止してからRに入れてください。クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。（→*）
- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■ 走行中にタイヤがバンクしたら

次のようなときはタイヤのバンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがバンクした場合の対処法は*を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

- グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障
- 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・クラッチ（マニュアル車）・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

オートマチック車では、冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ 駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

▲ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

- 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ トノカバー
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード
- ・ センターディスプレイの前

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
 - 荷重を不均等につけないようにしてください。
- これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

1 エンジンを始動するには

マニュアル車：

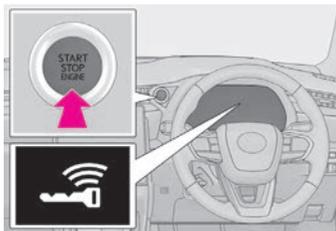
- 1 正しい運転姿勢（→*）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがNの位置にあることを確認する
- 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏み

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが

- 表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。
5 エンジンスイッチを短く確実に押す

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。エンジンは始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告（マニュアル車）

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんばんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

| エンジンを停止するには

⚠ 警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→*）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルやブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、下記の操作を行ってください。
オートマチック車：シフトポジションを N にし、エンジンスイッチを短く確実に押してください。
マニュアル車：クラッチペダルを踏み、エンジンスイッチを短く確実に押してください。

| エンジンスイッチを切りかえるには

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジン停止中に、メーターの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

オートマチックトランスミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| シフトポジションの使用目的について

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル・ブレーキ操作や、シフト操作を行わないでください。エンジン出力やエンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になり、事故につながる可能性がありますので注意してください。

△ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→*)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

| シフトポジションの切りかえ方法と表示について

▲ 警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

△ 注意

■ 車を降りるとき (運転席のみ)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

| 自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずにシフトポジションを N に保持したいとき

△ 注意

■ 自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

| M モードでギヤ段選択するには

▲ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル・ブレーキ操作や、シフト操作を行わないでください。エンジン出力やエンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になり、事故につながる可能性がありますので注意してください。

マニュアルトランスミッション★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| 操作のしかた

△ 注意

■ 損傷を防ぐために

- シフト操作時は次のことを必ずお守りください。
- お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。
- クラッチペダルを踏まずにシフトレバーを操作しないでください。
 - R ヘシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- Rヘシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。
- シフト操作時以外は、シフトレバーから手を離してください。
- エンジンを過回転させないよう、シフト操作は一段ずつ行ってください。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

IMT (インテリジェントマニュアルトランスミッション)

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

IMTは、シフト操作のミスやエンジンの過回転を防止するシステムではありません。状況によっては、システムが作動せず、スムーズに変速できないことがあります。システムに過度に依存すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電動パーキングブレーキ (オートマチック車)

操作のしかた

▲ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりに絶対には使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→*)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ (マニュアル車)

操作のしかた

▲ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをNにし、車が動かないことを確認してください。(→*)

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ブレーキホールド (オートマチック車)

システムを作動させるには

▲ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

△ 注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

↓ 消灯のしかた

△ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHS (アダプティブハイビームシステム)

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→*

AHB (オートマチックハイビーム)

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐためにシステムを OFF にする必要があるとき：→*

リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

↓ 操作のしかた

△ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー (フロント)

△ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。ガラスを傷つけるおそれがあります。

↓ 操作のしかた

▲ 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

△ 注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

*：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ/ワイパーの立て方

△ 注意

■ ワイパーを立てるときは

● ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。ワイパーアームが損傷することがあります。

● ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



● ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー (リヤ)

△ 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

△ 注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

▲ 警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 給油前にポデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近づけないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

● 気化した燃料を吸わないようにしてください。

● 燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しないでください。

● 給油口にノズルを確実に挿入してください。

● 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※：エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

給油口を閉めるには

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Lexus Safety System + 装着車）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- Lexus Safety System + は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +

⚠ 警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時

- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをささげるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

LEXUS SAFETY SYSTEM + で使用するセンサー

▲ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

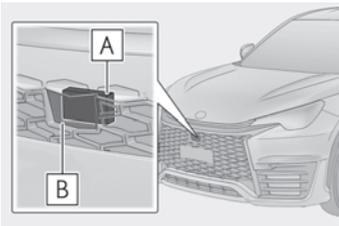
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく
レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

A レーダー

B レーダー専用カバー



- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレックス販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレックス販売店にご相談ください。
 - ・ レーダーを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

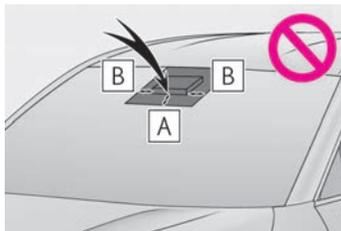
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウィンドウガラスは常にきれいにしておく
- ・ フロントウィンドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウィンドウガラスにガラスコーティング剤を使用しても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウィンドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レックス販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A 約 4cm

B 約 4cm



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について
フロントウインドウガラスが曇る可能性がある場合とシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

□ 知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JPF 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 安全にお使いいただくために：→*
- プリクラッシュセーフティを OFF にするとき
システムを OFF にする必要があるとき：→*

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

機能一覧

警告

■ ブリクラッシュブレーキについて

- ブリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- ブリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。ブリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- ブリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたりと、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について（オートマチック車）

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたりと、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたりと、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

■ LTAの機能

警告

■ LTAをお使いになる前に

- LTAを過信しないでください。LTAは自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- LTAを使用しないときは、LTAスイッチでシステムをOFFにしてください。

■ システムのON / OFFを変更する

警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行した

とき（先行車／周辺車の動きに合わせて自転車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自転車の位置によっては自転車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→*
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→*
- システムを OFF にする必要があるとき：→*

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

▲ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

LDA の設定を変更する

▲ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。
- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物が不明瞭または直線的でないとき
 - 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
 - 車線を検知できないおそれがあるとき：→*
 - センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→*
 - システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→*

*：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- システムを OFF にする必要があるとき：→*

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（オートマチック車）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→*）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やほんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→*
- システムを OFF にする必要があるとき：→*

システムが作動する状況と対象

▲ 警告

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→*
- 作動対象などが自転車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過す

るとき

- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのととき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃが

んでいるとき

- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

RSA（ロードサインアシスト）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSAは、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSAを使用してはいけない状況

システムをOFFにする必要があるとき：→*

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→*

レーダークルーズコントロール

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→*

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やほんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な

傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんばんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→*
- システムを OFF にする必要があるとき：→*

クルーズコントロール

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- システムを OFF にする必要があるとき：→*

ドライバー異常時対応システム（オートマチック車）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

| 停車保持フェーズ

▲ 警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

ITS Connect★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| ITS Connect の概要

▲ 警告

- 安全にお使いいただくために
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→*)をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき
- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起 (DSSS 用路側装置との通信) について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→*)をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

▲ 注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですので、がさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

BSM (ブラインドスポットモニター)

▲ 警告

- 安全にお使いいただくために
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。

- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品

□ 知識

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



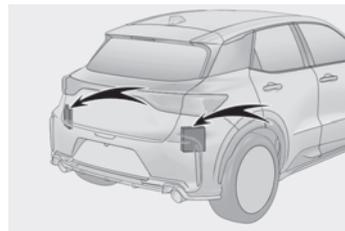
C5-001

▲ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件(→*)でしばらく走行してください(目安:約10分)。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリを付けたり、ステッカー(透明なものを含む)やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。

* : WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

後方車両接近告知

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

後方車両接近告知を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→*

周辺車両接近時サポート（録画機能★、通報提案機能）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

周辺車両接近時サポートを使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→*

後方車両への接近警報

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→*

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中と同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→*

安心降車アシスト

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把

握し、安全運転に努めてください。

- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために
→*

クリアランスソナー

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。

*：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→*

RCD（リヤカメラディテクション）*

*：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ

事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けしないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けしないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| 駐車支援機能

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合も

あります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| センサーの種類

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために

→*

- 万一、踏切内などでPKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→*

- 洗車時の注意

→*

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| センサーの種類

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために

→*

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| 後方歩行者の画面表示

▲ 警告

- 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→*

プラスサポート（オートマチック車販売店装着オプション）

| プラスサポートを使用するには

▲ 警告

- プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→*）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

| 急アクセル時加速抑制について

▲ 警告

- 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジン出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジン出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しば

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

らくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりエンジン出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ローンチコントロール（オートマチック車）

| 操作のしかた

▲ 警告

■ ローンチコントロールの使用について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 公道では使用しないでください。
- 路面状況や周囲の状況から十分に安全が確保できるときのみ使用してください。
- 周囲に人やさまたげになるものがないか十分に安全確認してから使用してください。
- 高度な運転技術を必要とする場合があります。路面状況や周囲の状況を確認しながら運転してください。

▲ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 車両に負荷がかかるため、過度な使用は避けてください。
- 必ず正しい手順に従って操作してください。
- すべりやすい路面では、車両を損傷するおそれがあります。必ず乾燥した舗装路面で使用してください。
- ローンチコントロールを連続で使用するときは、10分程度時間をあけてから使用してください。

運転を補助する装置

| 運転を補助する装置について

▲ 警告

■ ABSの効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRCやVSCが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSCを正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれ

があり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC や VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ エキスパートモードを選択するとき

- 公道では使用しないでください。
- 路面状況や周囲の状況から、十分に安全が確保できるときのみ選択してください。
- エキスパートモード選択時の運転には、高度な運転技能を必要とします。路面状況や周囲の安全を常に確認し、通常以上の慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→*）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ダイナミックトルクコントロール AWD について

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした AWD です。無理な走行はしないでください。
- すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

↓ 冬を迎える前の準備について

▲ 警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

▲ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ/送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は*を参照してください）

↓ 運転する前に

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

△ 注意

- ガラスに付いた氷を除去するとき
氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

オートエアコン

| エアコン操作スイッチについて

▲ 警告

- ナノイー X 発生装置について
高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。
- フロントウインドウガラスの曇りを防止するために
 - 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
 - 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



- リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター作動中の警告
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

△ 注意

- バッテリーあがりを防ぐために
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。
- ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために
運転席窓側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

ステアリングヒーター／シートヒーター

▲ 警告

- 低温やけどについて
次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - 皮膚の弱い方
 - 疲労の激しい方
 - 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

△ 注意

- シートヒーターの損傷を防ぐために
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐために
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

| シートヒーター（フロント席）

▲ 警告

- 異常加熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - 長時間連続使用しないでください。
 - 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

| 室内灯の位置

△ 注意

■ ランプのレンズの取り外しについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

| 収納装備の位置

▲ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままにしていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ 収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

| カップホルダーを使うには

▲ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを開けておいてください。

△ 注意

■ カップホルダーを使用するときは（コンソールボックスのみ）

カップホルダーを取り外せるいちばん後ろの位置にスライドさせたまま、走行しないでください。カップホルダーが不安定となり、異音が発生するおそれがあります。

| ボトルホルダー

△ 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

| オープントレイ

▲ 警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。

急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- コンソールボックス下：トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

| デッキボード

▲ 警告

■ デッキボードを開けたり取りはずしたときは

走行前に必ずもとの取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

△ 注意

■ バックドアを開めるとき

デスクボードのフックをバックドア開口部の上端にかけたままにしないでください。

デスクボードが破損するおそれがあります。

トノカバーの取り付け

▲ 警告

■ トノカバーを取り付けるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
- 留めひもを正しく取り付けてください。

▲ 注意

■ トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上に物を置かないでください。トノカバーが変形するおそれがあります。
- 留めひもがはずれた状態でバックドアの開閉をしないでください。トノカバーが破損するおそれがあります。
- トノカバーフックにトノカバーとデスクボードの留めひも以外のものを掛けないでください。フックやバックドアが破損するおそれがあります。

その他の室内装備

パニティミラーを使うには

▲ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリソケットを使うには

▲ 注意

■ アクセサリソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用し

ないときは、フタを開けておいてください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

■ 誤作動を防ぐために

エンジンスイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

- ドアが施錠できない
- メーターのオープニング画面が表示される
- 室内灯やインストールメントパネル照明などが点灯する

充電用 USB Type-C 端子

▲ 注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- コンソール後方：充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

▲ 警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近づけない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

▲ 注意

■ 機能が正常に動かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき

- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3 mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
 - ・ カメラレンズを保護するカバー
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入ったケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーが車室内にないとき
- 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき
- S ペン (Galaxy 端末付属のタッチペン) 内蔵の端末 (Note シリーズ等) をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われず、または、作動表示

灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近づけると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。さらに、車の電子キーを充電中の携帯端末上や空きスペースに置くと磁気の影響により電子キーが作動しなくなるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近づけると、こわれたりするおそれがありますので、近づけないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■ スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の様相が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ 情報等でご確認ください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

| コートフックを使うには

▲ 警告

■ コートフックにかけてはいけないもの

コートフックにハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

| アシストグリップを使うには

▲ 警告

■ アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

▲ 注意

■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

外装の手入れ

| 手入れの作業要領

▲ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

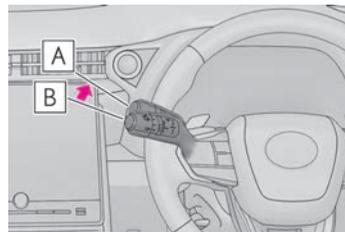
■ フロントウィンドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
 - 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近づけたとき
 - フロントウィンドウガラスに衝撃を与えたとき
 - 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき
- #### ■ 排気管について
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合



は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- BSM
- 後方車両への接近警報
- RCTA
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- PKSB
- クリアランスソナー
- Lexus Safety System +

▲ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→*）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウィンドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

| 車内の手入れをするには

□ 知識

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

▲ 警告

* : WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→*)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電(ワイヤレス充電器)(→*)をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→*)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品(ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど)を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

| 革部分の手入れをするには

▲ 注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 衣類への色移りを避けるために

シートなど内装表皮材の染料が衣類へ移るおそれがあるため、次のことにご注意ください。

- シートや衣類が濡れたまま座らないでください。
- 白色や淡色の衣類には色が移りやすくなる可能性があります。

ボンネット

| ボンネットを開けるには

▲ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重

大な傷害におよぶが、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、エンジンスイッチを OFF にしたあとでも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ ボンネットステアをステア穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ バッテリーの取り扱いについて

→*

△ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステアをステア穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステアを正しくもどさない状態でボンネットを開めると、ボンネットやステアが損傷するおそれがあります。

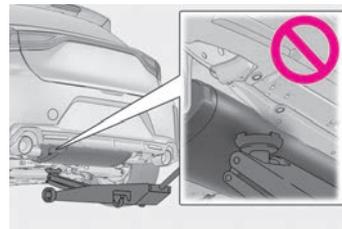
ガレージジャッキ

1 ジャッキポイントの位置を確認する

△ 注意

■ 車両のうしろ側をジャッキアップするときは

ジャッキの受け皿がマフラーにかかっていないことを確認してください。マフラーにジャッキがかかった状態でジャッキアップすると、マフラーが損傷するおそれがあります。



ウォッシャー液の補充

1 補充するには

△ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかるとう火するおそれがあり危険です。

△ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

| タイヤの点検項目

▲ 警告

■ 点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▲ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。
また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

| 空気圧バルブ/送信機の装着について

▲ 注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ/送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警告システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ/送信機を装着してください。空気圧バルブ/送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアリークの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ バンク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。

| タイヤの空気圧を設定するには

▲ 警告

■ 現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

タイヤの交換

┃ 工具の位置

▲ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換以外の目的で使用しない
- ジャッキは必ずこの車両用のものを使用し、他の車のジャッキを使用しないこと
- この車両用のジャッキはお客様の車にしか使うことができないため、他の車に使用しないこと
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にもものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

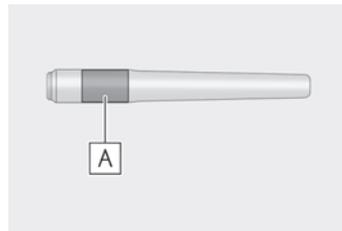
┃ タイヤの取りはずし

▲ 警告

■ タイヤ交換について

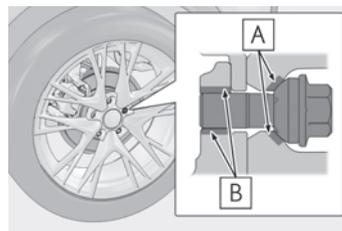
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。また、ガイドピンは樹脂製のためA部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



- 次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用してください。なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。
- ホイールボルトとホイールの球面座部Aにオイルやグリースを塗らないでください。ホイールボルトを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじBが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
- お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

- ・ ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける
- ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

タイヤの取り付け

警告

■ タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またホイールボルトがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後は、すぐに 140N・m (1428kgf・cm) の力でホイールボルトを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールボルトを使用する
- ホイールボルトのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

■ 工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■ タイヤ・ホイール・バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換

→*

タイヤ空気圧について

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

交換するには

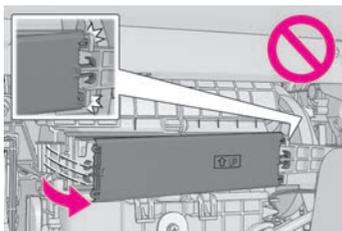
注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池を交換するには

▲ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらないでください。
- カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

▲ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ヒューズの点検・交換するには

▲ 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

- お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。
- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
 - 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
 - ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

▲ 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

万一の場合には

発炎筒

発炎筒を使うには

▲ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

| 車を停止するには

▲ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルやブレーキの操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

▲ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

▲ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book



けん引について

▲ 注意

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

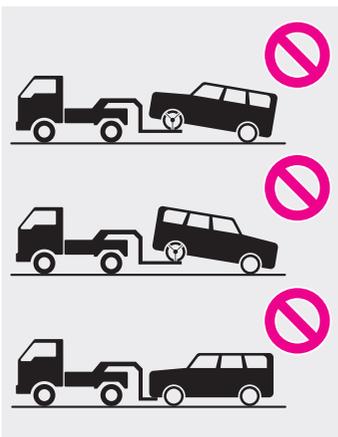
| レッカー車でけん引するとき

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



△ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



| 他車にけん引してもらうとき

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあります。次のことをしないでください（オートマチック車）。
 - ・ 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
 - ・ エンジンスイッチを OFF にする

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

△ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する（マニュアル車）
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる（オートマチック車）
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

| エンジンを始動するには

△ 注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯・警告ブザーへの対応

▲ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなる場合があります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

● タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

● 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

● タイヤの状態が悪化するると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システ

ムによる警報ができない場合があります。

▲ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについて

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ/送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

メッセージと警告作動

▲ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
→*

パンクしたときは

▲ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キットの内容/各部の名称

▲ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険が

あります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。バンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ バンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

| 応急修理するときは

▲ 警告

■ バンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにバンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとバンク補修液が噴出する場合があります。

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボルトとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

- お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

▲ 注意

■ 応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。
- **応急修理キットについて**
- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ほこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

キーをなくしたときは

▲ 注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

▲ 注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

ドアの施錠・解錠

▲ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ドア開スイッチでドアを開けることができないときは

▲ 注意

■ 手動リリースハンドルについて

通常は手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損/変形する恐れがあります。

バッテリーがあがったときは

エンジンを再始動するには

▲ 警告

■ バッテリー端子をはずすときは

必ず-端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近づけない
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったときは

場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を
患部にあてておく

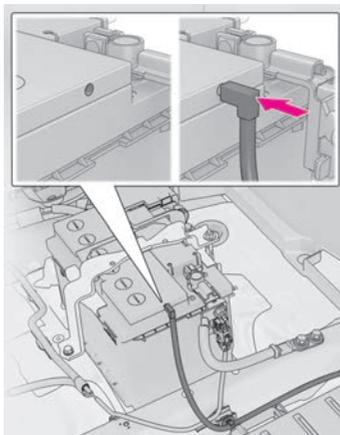
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

■ バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店でバッテリーの点検を受けてください。
バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテ
リーから臭気ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれ
があり危険です。

■ バッテリーを交換するときは

- バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談くださ
い。
- 交換後は、交換したバッ
テリーの排気穴に排気
ホースと排気穴栓を確実
に取り付けてください。
正しく取り付けられてい
ないと、可燃性ガスが車
内に侵入したり、引火し
て爆発するおそれがあり
危険です。



△ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的にバッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

↓ 対処方法

▲ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

△ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

- 次のことをお守りください。
- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

脱出するには

⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトポジションを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量など)

オートマチックトランスミッション

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

⚠ 注意

■ マニュアルトランスミッションギヤオイル

使用されるギヤオイルの特性や使用環境により、アイドリング音、シフトレバーの操作感や燃費が影響を受けることがあります。最適な性能を実現するため、“弊社純正マニュアルトランスミッ

ションギヤオイルLV”のご使用をおすすめします。

トランスファー

⚠ 注意

■ トランスファーオイルの注意

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルギヤオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/45R19 95Y	19×8 1/2J	230	(2.3)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

設定を変更するには

⚠ 警告

■ センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

知っておいていただきたいこと

| 安全にお使いいただくため

▲ 警告

- 安全のため、運転中は運転者がシステムを操作しないでください。道路や交通への注意が不十分な場合、事故を引き起こす可能性があります。
- 運転中は、必ず交通規制を遵守し道路状況に注意してください。道路の交通標識が変更された場合、一方通行指示などの情報がルート案内に反映されない場合があります。

基本操作

ディスプレイと操作スイッチ

▲ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作をせず、停車させてから操作をしてください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

▲ 注意

エンジンが停止した状態で長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

タッチスクリーンの操作

| タッチスクリーン操作上の留意事項

▲ 注意

- 画面保護のため、指を軽く画面にふれてタッチスクリーンを操作してください。
- 指以外のものでもタッチスクリーンを操作しないでください。
- 画面の汚れは、メガネ用クリーニングクロスなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押ししたり、かたい布などでこすったりすると表面に傷がつくことがあります。

- ベンジンやアルカリ性溶液などを使用して画面を清掃しないでください。画面が損傷するおそれがあります。
- 条件によって画面表面が熱くなることがあります。長時間ふれ続けると低温やけどを起こす可能性があります。

オーディオシステムの ON/OFF と音量を調整する

▲ 注意

- エンジンがかかっていない状態で、オーディオシステムを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

USB Type-C 端子の接続

▲ 注意

- 接続する機器の形状によっては、周辺部品と干渉し、本体もしくは接続機器が破損するおそれがあります。
- 接続中に機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。

HDMI 機器を接続する★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▲ 注意

- 接続中に外部機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。

各種設定および登録

ソフトウェア情報の確認や更新をする

| ソフトウェアを更新する

▲ 注意

- ソフトウェア更新はお客様の責任において実行してください。

△ 注意

一部の駐車場では、利用する際に事前に専用サイトにて予約が必要になります。

オーディオシステム

ラジオ用アンテナの取り扱い

△ 注意

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためるため使用しないでください。
- リヤウインドウガラスおよびリヤスポイラーのアンテナ線部に次のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。
 - ・ 金属を含有するウインドウフィルム
 - ・ その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

地上デジタルテレビの視聴についての留意事項

▲ 警告

- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）
- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

地上デジタルテレビ用アンテナの取り扱い

△ 注意

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためますので使用しないでください。
- フロントウインドウガラスおよびリヤウインドウガラスのアンテナ線部に以下のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。
 - ・ 金属を含有するウインドウフィルム
 - ・ その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

USB メモリーの再生についての留意事項

▲ 警告

- 安全のため、運転者は運転中に USB メモリーを操作しないでください。
- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）
- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

△ 注意

- USB メモリーを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに USB メモリーが故障するおそれがあります。
- 接続中に USB メモリーを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。

MP3/WMA/AAC/WAV/FLAC/ALAC/Ogg Vorbis の再生について

△ 注意

ファイルに間違った拡張子をつけしないでください。ファイルの中身と一致しない拡張子をファイルにつけると、誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

間違いの例：

- MP3 ではないファイルに、「.mp3」の拡張子をつける
- WMA ではないファイルに、「.wma」の拡張子をつける

iPod/iPhone の再生についての留意事項

▲ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPod/iPhone を操作しないでください。

△ 注意

- iPod/iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPod/iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPod/iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Apple CarPlay の再生についての留意事項

▲ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPhone を操作しないでください。

△ 注意

- iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Android Auto の再生についての留意事項

▲ 警告

安全のため、運転者は運転中に Android 機器を操作しないでください。

△ 注意

- Android 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに Android 機器が故障するおそれがあります。
- 接続中に Android 機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。Android 機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。Android 機器や端子が破損するおそれがあります。

Bluetooth® オーディオの再生についての留意事項

▲ 警告

- 安全のため、運転者は運転中にポータブル機本体の操作をしないでください。
- Bluetooth® 通信用の車両側アンテナはマルチメディアシステム内に内蔵されています。
植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。

△ 注意

- ポータブル機を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにポータブル機が故障するおそれがあります。
- 接続中にポータブル機を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。ポータブル機や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。ポータブル機や端子が破損するおそれがあります。
- ポータブル機をマルチメディアシステムに近づけて使用しないでください。近づけすぎると、音質が劣化したり、接続状態が悪化する場合があります。

HDMI の再生についての留意事項

▲ 警告

安全のため、運転者は運転中に接続した機器を操作しないでください。

△ 注意

- 外部機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに外部機器が故障するおそれがあります。
- 接続中に外部機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。外部機器や端子が破損するおそれがあります。

Miracast® の再生についての留意事項

▲ 警告

- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションをPに入れたときに映像を視聴できます。(走行中は音声のみを再生します)
- パーキングブレーキがかかっているなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。
- 運転中はスマートフォンやタブレットを接続したり、操作をしないでください。

▲ 注意

スマートフォンまたはタブレットを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにスマートフォンまたはタブレットが故障するおそれがあります。

ハンズフリー電話

ハンズフリー電話についての留意事項

▲ 警告

- 安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

▲ 注意

携帯電話は車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに携帯電話が故障するおそれがあります。

G-Link

データ通信に関する留意事項

| 安全にご利用するため注意すること

▲ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作（音声操作も含む）をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わ

*：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

ぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

| 通信モジュール (DCM) について

▲ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、G-Linkをお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

G-Link を解約する

| マルチメディアシステムから解約する

▲ 注意

- マルチメディアシステムに保存した情報は、マルチメディアシステムで解約したときのみ消去できます。
- お客様の大切な情報を保護するため、お車を手放すときは、マルチメディアシステムで解約手続きおよび初期化（→*）を必ず行ってください。

ヘルプネットについて

▲ 注意

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

安全のために

▲ 警告

- 安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。
- 緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。
- 緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じる時は、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。
- 手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。
- マルチメディアシステムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- バッテリーの電圧低下または接続が断れたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。
- 携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。
- 以下のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・ 携帯電話サービスエリア外で使用している
 - ・ 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、ディスプレイ、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
 - ・ G-Link 契約が未契約、または契約期限が切れている
 - ・ 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない
- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し

行います。電波状態などの理由で回線接続ができないときは、電波状態のいい場所へ移動してください。通報が必要ときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 緊急通報後に救援を待つ間は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- G-Link 契約を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、レクサス販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあります。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

▲ 注意

- マルチメディアシステム内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとする、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにレクサス販売店にご相談ください。
- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要ときには、レクサス販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：-20℃～+60℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。

- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、エンジンスイッチを OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

▲ 警告

- 以下のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
 - ・ 通信が始まらない。
 - ・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
 - ・ 通話できない。
- 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

緊急通報をする

| エアバッグ作動による自動通報

▲ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話できません。

- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態などにより回線接続ができないときには、電波状態のいい場所へ移動してください。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

| ボタン操作による手動通報

▲ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。
- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・ 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・ 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話できません。
 - ・ 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。電波状態などにより回線接続ができないときには、電波状態のいい場所へ移動してください。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

保守点検をする

| 自動保守点検について

▲ 注意

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断してしまったときは、次にエンジンスイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 手動保守点検を実施する

▲ 警告

手動保守点検の途中で、エンジンスイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまつたときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、レクサス販売店にご相談ください。

▲ 注意

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

- 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。
- 手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはエンジンスイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、レクサス販売店にご相談ください。

表示灯について

▲ 警告

- 表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ エンジン始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。
 - ・ エンジン始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。
 - ・ 携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。
 - ・ エンジン始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。

- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

故障とお考えになる前に

▲ 警告

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

駐車支援システム

パノラミックビューモニターの機能とはたらき

▲ 警告

- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

シフトポジションが D、N のときの表示モード (A タイプ) ／シフトポジションが R 以外のときの表示モード※ (B タイプ)

※：パーキングブレーキを解除しているとき

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナーの表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

シフトポジションが R のときの表示モード

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しな

から運転してください。

- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

▲ 警告

後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

床下透過映像を表示する

▲ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配、路面状況、周囲の明るさ、オプションの装備、タイヤの交換などにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 表示される映像は、過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

パノラミックビューモニターの注意点

▲ 警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なる場合があります。また、カメラの映し出す範囲はかぎられています。画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全

を確認し、十分注意した上で運転してください。

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア、バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない道路
 - ・ タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
 - ・ サスペンションを改造しているとき
 - ・ 画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

▲ 注意

- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解した上で使用してください。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに明暗がでる場合があります。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。

- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビュー、ワイドバックビュー、サイドビューに表示されている立体物が、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。(倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど)
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。
- カメラが正しく作動せず、画面が次のように表示されることがあります。
 - ・ シフトポジションを R にしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
 - ・ シフトポジションを R にしたときに、カメラ映像に切りかわらない
 - ・ シフトポジションを R 以外にしたときに、カメラ映像が表示されたままになる
 - ・ カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

カメラのお手入れ方法

▲ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のことにご注意ください。

- ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は防水構造となっています。取りはずし、分解、改造をしないでください。
- ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- ・ カメラのカバーは樹脂です。有機溶剤・ボディワックス、油膜取り剤、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

▲ 注意

- ノズル部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ノズルの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

パーキングアシストライト

▲ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。
- ・ ライト部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ライトの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ ライト部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
- ・ ライト部を洗うときは、大量の水でライトの汚れを流したあと、

水で湿らせた柔らかい布でライト部をふき取ってください。

- ・ライトのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・洗車時に高圧洗浄機でライトやライト周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ライト部をぶつけたときは、ライトの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

画面と実際の立体物との誤差

▲ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ETC の利用

ETC サービスについて

ETC を利用する前に

▲ 警告

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC2.0 ユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

△ 注意

- ETC2.0 ユニットの用いたサービスには、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。
- 路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETC アンテナ（インストールパネル中央付近に内蔵されています。）の上方には物を置かないでください。
- ETC アンテナの近くに電波を発する電子機器を設置しないでください。電波干渉により、無線通信が正常に行われず、開閉バーが開かない、料金決済サービスが正しく受けられないなど

の原因となる可能性があります。

<干渉の可能性がある主な機器>

- ・ Wi-Fi® を搭載した機器（モバイルルータ、携帯電話など）

・ レクサス純正品以外の無線機器

<干渉が発生した場合の対処>

・ ETC アンテナからできるだけ距離を離し設置するか、干渉する機器を取りはずしてください。

・ Wi-Fi® を搭載した機器は、可能であれば 2.4GHz ワイヤレスネットワークを選択してください。

- フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。
- 車両 1 台に対して複数の ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

ETC カードについて

△ 注意

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- 変形、または破損した ETC カードは使用しないでください。
- ETC カードには有効期限があります。有効期限内の ETC カードをご利用ください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードは使用しないでください。
- ETC カードの金属接点部に手で触ったり汚れた財布などに保管しないでください。
- 金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。

ETC カードを挿入する前

△ 注意

- ETC カードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC カードの有効期限内は、補助手段として使用してください。ETC を使用する前は、ETC カードに記載されている有効期限を確認してください。

- ETCカード接点に汚れが付着していないかを確認してください。汚れが付着していると、エラーが発生したり、開閉バーが開かなくなるおそれがあります。ETCカードは汚れの付きにくい場所に保管するとともに、ETC接点部を定期的にクリーニングしてください。
- ETCカードはエンジン始動後に挿入してください。エンジン始動前に挿入されているとETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

ETCカードを挿入したあと

△ 注意

- ETCを利用する際は、あらかじめETCカードが確実にETC2.0ユニットに挿入されていることと、ETC2.0ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC2.0ユニットがETCカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でETCカードを挿入すると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETCゲート手前、ETCゲート、高速道路を走行中、ETCカードを抜いたり挿したりしないでください。ETCカード内のデータが破損したり、正しく料金清算が行われなくなるおそれがあります。

ETC2.0ユニットの使い方

ETC2.0ユニットについて

△ 注意

- ETC2.0ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC2.0ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC2.0ユニットに衝撃を与えないでください。ETC2.0ユニットが、故障・破損するおそれがあります。
- ぬれた手でETC2.0ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC2.0ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。また、付着した液体の成分によっては、ETC2.0ユニットが変形・変色・故障する場合があります。
- 汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどの薬品は絶対に使用しな

いでください。ETC2.0ユニットが変形・変色・故障する場合があります。

ETCカードを挿入する

△ 注意

- 緑ランプが点灯した場合でも、解約済み、または有効期限が切れている、またはカード会社が使用無効としたETCカードを使用した場合、ETC車線に設置されている開閉バーが開かないことがあります。
- 料金所のカードリーダーでは正しく認証されないのに緑ランプが点灯する場合がありますが、ETC2.0ユニットの故障ではありません。このようなときは、カード会社にカードの再発行を申し出てください。
- 緑ランプが点滅中はETCカードを抜かないでください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

有効期限切れ通知について

△ 注意

- GPSの受信状態により、ごく稀に誤って有効期限切れ通知をすることがありますが、ETC2.0ユニットの故障ではありません。誤った通知が継続する場合は、レクサス販売店で点検を受けて相談してください。
- マルチメディアシステムをバッテリーターミナルから脱着したあとに起動した場合、GPS情報受信後、数分間は有効期限切れ通知されないことがあります。

ETCカードを抜く

△ 注意

ETCカードが取り出せなくなった場合、無理に取り出さず、レクサス販売店にお問い合わせください。

カード書込みエラー通知について

△ 注意

高速道路をご利用中の場合は、出口料金所での通行料金のお支払いは、係員のいる車線（「一般」または「ETC／一般」）で、いつ

たん停車して、ETC カードを係員にお渡しください。料金精算機のある車線では、「係員呼出ボタン」を押して係員を呼び出してください。

ETC ゲート（入口・出口／精算用）の通過について

▲ 警告

運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▲ 注意

ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。ETC2.0 ユニットやマルチメディアシステムでは、エラーが案内されない場合があります。

利用履歴を確認する

▲ 警告

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

付録

認証・商標についての情報

通信モジュール（DCM）についての情報

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ETC2.0 ユニットについての情報

ETC2.0 ユニットは電波法の基準に適合しています。製品上の記載を削除しないでください。また、ETC2.0 ユニットの分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト

アクセサリーパーツの取扱方法、安全に関する情報などを記載しております。
安全・安心にご使用いただくために、お持ちのアクセサリーパーツについて、必ずお読みください。
本サイトは、お持ちのスマートフォンやタブレット、
携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、下記 URL より閲覧してください。
なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。



<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp> にて掲載しております。



LJ-2

Publication No. M52L22

Part No. 01999-52L22

Printed in Japan 01-2506 Z

LBX

ユーザーガイド